

# 令和2年度 財政状況資料集

## 総括表（都道府県）

都道府県名	神奈川県		職員の状況				区分		令和2年度(千円)	令和元年度(千円)	区分		令和2年度(千円・%)	令和元年度(千円・%)
			区分	定数	1人あたり平均給料月額(百円)		歳入総額	歳出総額	実質収支比率	経常収支比率	(※1)	標準財政規模	財政力指数	公債費負担比率
グループ	B		知事	1	13,050		2,554,233,791	2,340,123,593	20,632,561	1,882,673,722				
人口	令和2年国調(人)	9,237,337	副知事	3	10,788		214,110,198	142,077,810	16,949,404	72,032,388	3,683,157	(112.3)	(109.6)	
	平成27年国調(人)	9,126,209	教育長	1	9,025		117,513,868	117,513,868	1,245,056	72,032,388	3,683,157	9.8	10.1	
	増減率(%)	1.2	議会議長	1	11,400		870,146,974	870,146,974	853,498,385	870,146,974	853,498,385	104.8	114.6	
住民基本台帳人口(※6)	令03.01.01(人)	9,220,245	議会副議長	1	10,260		990,448,911	990,448,911	958,184,216	990,448,911	958,184,216	資金不足比率(※4)		
	うち日本人(人)	8,993,479	議会議員	103	9,215		1,102,866,868	1,102,866,868	1,094,305,720	1,102,866,868	1,094,305,720			
	令02.01.01(人)	9,209,442	一般職員	11,037	36,035,805		1,324,627,964	1,324,627,964	1,302,268,786	1,324,627,964	1,302,268,786			
	うち日本人(人)	8,981,167	うち消防職員	-	-		1,945,059,951	1,945,059,951	1,591,682,180	1,945,059,951	1,591,682,180			
	増減率(%)	0.1	うち技能労務職員	257	812,120		3,413,876,569	3,413,876,569	3,440,568,114	3,413,876,569	3,440,568,114			
面積(km <sup>2</sup> )	2,416		警察官	15,702	50,937,288		303,573,583	303,573,583	296,612,118	303,573,583	296,612,118			
人口密度(人/km <sup>2</sup> )	3,816		教育公務員	23,475	80,561,740		203,051,402	203,051,402	252,450,431	203,051,402	252,450,431			
世帯数(世帯)	4,223,706		臨時職員	2,939	8,461,381		11,372,089	11,372,089	8,176,201	11,372,089	8,176,201			
			合計	53,153	175,996,214		110,797,885	110,797,885	61,633,248	110,797,885	61,633,248			
			ラスパイレス指数			101.6	3,563,431	3,563,431	30,460,143	3,563,431	30,460,143			
							76,359,491	76,359,491	64,447,027	76,359,491	64,447,027			
一般会計等の一覧	事業会計の一覧	公営企業(法適)の一覧	公営企業(法非適)の一覧	関係する一部事務組合等一覧	地方公社・第三セクター等一覧									
項番	会計名	項番	会計名	項番	組合等名	項番	団体名						(※3)	
(1)	一般会計	(11)	国民健康保険事業会計	(12)	水道事業会計	(18)	(一財)神奈川県厚生福利振興会						○	
(2)	公債管理特別会計			(13)	電気事業会計	(19)	(地独)神奈川県立産業技術総合研究所						○	
(3)	公営競技収益配分金等管理会計			(14)	公営企業資金等運用事業会計	(20)	(株)湘南国際村協会							
(4)	地方消費税清算会計			(15)	相模川総合開発共同事業会計	(21)	(公財)宮ヶ瀬ダム周辺振興財団							
(5)	水源環境保全・再生事業会計			(16)	酒匂川総合開発事業会計	(22)	(公財)かながわ国際交流財団							
(6)	市町村自治振興事業会計			(17)	流域下水道事業会計	(23)	(公財)神奈川県文学振興会							
(7)	恩賜記念林業振興資金会計					(24)	(公財)神奈川県芸術文化財団							
(8)	林業改善資金会計					(25)	(公財)かながわ健康財団							
(9)	沿岸漁業改善資金会計					(26)	(公財)神奈川県生活衛生営業指導センター							
(10)	災害救助基金会計					(27)	(一財)あしがら勤労者いこいの村							

(注釈) ※1: 経常収支比率の( )内の数値は、令和元年度は「減収補填債(特例分)」及び「臨時財政対策債」を、令和2年度は「減収補填債(特例分)」「猶予特例債」及び「臨時財政対策債」を除いて算出したものである。  
 ※2: 各会計の一覧は主な会計(10会計まで)を記載している。  
 ※3: 地方公共団体が損失補填等を行っている出資法人で、健全化法の算出対象となっている団体については、「地方公社・第三セクター等」の団体名に○印を付与している。  
 ※4: 資金不足比率欄には、資金が不足している会計のみ記載している。  
 ※5: 個人情報保護の観点から、対象となる職員数が1人又は2人の場合は、「給料月額(百円)」と「一人あたり給料月額(百円)」を「アスタリスク(\*)」としている。(その他、数値のない欄については、すべてハイフン(-)としている)。  
 ※6: 人口については、調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。

(1) 普通会計の状況 (都道府県)

歳入の状況 (単位 千円・%)				道府県税の状況 (単位 千円・%)			
区分	決算額	構成比	経常一般財源等	構成比	区分	収入済額	構成比
地方税	1,182,719,707	46.3	917,000,177	77.8	普通税	1,182,704,689	100.0
地方譲与税	132,264,404	5.2	132,264,404	11.2	法定普通税	1,182,704,689	100.0
地方揮発油譲与税	1,590,320	0.1	1,590,320	0.1	道府県民税	374,503,483	31.7
地方道路譲与税	-	-	-	-	個人均等割	8,811,507	0.7
特別とん譲与税	-	-	-	-	所得割	304,084,499	25.7
石油ガス譲与税	43,405	0.0	43,405	0.0	法人均等割	7,347,060	0.6
自動車重量譲与税	602,358	0.0	602,358	0.1	法人税割	21,895,312	1.9
航空機燃料譲与税	-	-	-	-	利子割	1,693,230	0.1
森林環境譲与税	146,026	0.0	146,026	0.0	配当割	14,051,204	1.2
特別法人事業譲与税	129,882,295	5.1	129,882,295	11.0	株式等譲渡所得割	16,620,671	1.4
市町村たばこ税都道府県交付金	-	-	-	-	事業税	268,955,980	22.7
地方特例交付金	4,949,819	0.2	4,949,819	0.4	個人分	19,392,521	1.6
個人住民税減収補填特例交付金	3,859,734	0.2	3,859,734	0.3	法人分	249,563,459	21.1
自動車税減収補填特例交付金	1,090,085	0.0	1,090,085	0.1	地方消費税	369,527,047	31.2
地方交付税	120,995,532	4.7	119,795,931	10.2	不動産取得税	25,127,833	2.1
普通交付税	119,795,931	4.7	119,795,931	10.2	道府県たばこ税	8,710,473	0.7
特別交付税	1,109,554	0.0	-	-	ゴルフ場利用税	1,352,878	0.1
震災復興特別交付税	90,047	0.0	-	-	軽油引取税	38,478,089	3.3
(一般財源計)	1,440,929,462	56.4	1,174,010,331	99.6	自動車税	96,048,905	8.1
交通安全対策特別交付金	1,354,465	0.1	1,354,465	0.1	鉱区税	1	0.0
分担金・負担金	3,377,446	0.1	-	-	固定資産税特例	-	-
使用料	28,320,439	1.1	1,537,304	0.1	法定外普通税	-	-
手数料	11,560,758	0.5	-	-	目的税	15,018	0.0
国庫支出金	694,328,001	27.2	-	-	法定目的税	15,018	0.0
国有提供交付金	-	-	-	-	狩猟税	15,018	0.0
財産収入	11,342,976	0.4	2,216,089	0.2	法定外目的税	-	-
寄附金	965,123	0.0	-	-	旧法による税	-	-
繰入金	56,536,801	2.2	-	-	合計	1,182,719,707	100.0
繰越金	20,632,561	0.8	-	-			
諸収入	34,379,448	1.3	5,471	0.0			
地方債	250,506,311	9.8	-	-			
うち減収補填債(特例分)	51,303,300	2.0	-	-			
うち猶予特例債	11,958,000	0.5	-	-			
うち臨時財政対策債	103,679,000	4.1	-	-			
歳入合計	2,554,233,791	100.0	1,179,123,660	100.0			

歳出の状況 (単位 千円・%)				
目的別歳出の状況 (単位 千円・%)				
区分	決算額 (A)	構成比	(A)のうち普通建設事業費	(A)のうち充当一般財源等
議会費	3,504,449	0.1	4,730	3,504,359
総務費	176,626,242	7.5	11,359,602	145,583,510
民生費	537,585,987	23.0	6,556,205	418,867,492
衛生費	245,394,458	10.5	12,165,641	48,782,545
労働費	5,430,170	0.2	241,893	4,020,227
農林水産業費	25,017,979	1.1	10,983,315	15,401,871
商工費	91,162,616	3.9	3,319,244	38,943,991
土木費	110,788,962	4.7	84,702,590	28,206,556
警察費	193,969,395	8.3	8,301,613	182,642,762
消防費	-	-	-	-
教育費	392,245,791	16.8	21,686,979	295,383,767
災害復旧費	5,493,979	0.2	-	1,458,767
公債費	310,223,023	13.3	-	305,473,364
諸支出金	-	-	-	-
前年度繰上充用金	-	-	-	-
利子割交付金	988,573	0.0	-	988,573
配当割交付金	8,350,276	0.4	-	8,350,276
株式等譲渡所得割交付金	9,872,389	0.4	-	9,872,389
分離課税所得割交付金	1,560,075	0.1	-	1,560,075
地方消費税交付金	187,410,784	8.0	-	187,410,784
ゴルフ場利用税交付金	940,225	0.0	-	940,225
特別地方消費税交付金	-	-	-	-
自動車取得税交付金	4,679	0.0	-	4,679
軽油引取税交付金	18,492,915	0.8	-	18,492,915
自動車税環境性能割交付金	4,001,837	0.2	-	4,001,837
法人事業税交付金	11,058,789	0.5	-	11,058,789
特別区財政調整交付金	-	-	-	-
歳出合計	2,340,123,593	100.0	159,321,812	1,730,949,753

性質別歳出の状況 (単位 千円・%)					
区分	決算額	構成比	充当一般財源等	経常経費充当一般財源等	経常収支比率
義務的経費計	862,400,066	36.9	781,160,974	774,076,573	57.5
人件費	506,327,313	21.6	455,792,398	449,014,614	33.4
うち職員給	370,985,061	15.9	321,284,651	320,595,866	23.8
扶助費	47,082,068	2.0	21,127,550	20,820,933	1.5
公債費	308,990,685	13.2	304,241,026	304,241,026	22.6
元利償還金	308,990,685	13.2	304,241,026	304,241,026	22.6
うち元金	277,197,856	11.8	272,496,203	272,496,203	20.2
うち利子	31,792,829	1.4	31,744,823	31,744,823	2.4
一時借入金利子	-	-	-	-	-
その他の経費	1,312,908,030	56.1	920,272,537	550,551,391	40.9
物件費	94,173,083	4.0	64,334,240	52,317,291	3.9
維持補修費	10,386,579	0.4	4,739,752	3,123,567	0.2
補助費等	1,066,323,280	45.6	731,485,495	448,418,253	33.3
繰出金	45,510,620	1.9	45,510,620	45,510,620	3.4
積立金	90,653,957	3.9	72,839,861	-	-
投資及び出資金	180,750	0.0	180,750	-	-
貸付金	5,679,761	0.2	1,181,819	1,181,660	0.1
前年度繰上充用金	-	-	-	-	-
投資的経費計	164,815,497	7.0	29,516,242	-	-
うち人件費	3,539,220	0.2	2,790,810	-	-
普通建設事業費	159,321,812	6.8	28,057,769	-	-
うち補助	62,450,595	2.7	1,231,515	-	-
うち単独	82,677,445	3.5	25,686,582	-	-
災害復旧事業費	5,493,685	0.2	1,458,473	-	-
失業対策事業費	-	-	-	-	-
歳出合計	2,340,123,593	100.0	1,730,949,753	-	-

区分		令和2年度		令和元年度	
徴収率 (%)	現計	98.8	98.6	99.2	98.7
	道府県民税	98.9	97.6	99.0	97.5
	事業税	98.9	98.7	100.0	99.9
国民健康保険 事業会計の状況	実質収支	27,943,028	10,637,197	10,637,197	
	再差引収支	27,943,028	10,637,197	10,637,197	

(注釈)  
普通建設事業費の補助事業費には受託事業費のうちの補助事業費を含み、  
単独事業費には同級他団体施行事業負担金及び受託事業費のうちの単独事業費を含む。

(2)各会計、関係団体の財政状況及び健全化判断比率（都道府県）

令和2年度

神奈川県

一般会計等の財政状況(単位:百万円)

会計名	歳入	歳出	形式収支	実質収支	他会計等からの繰入金	地方債現在高	備考
1 一般会計	2,507,567	2,300,718	206,849	72,032	48,455	4,110,749	
2 公債管理特別会計	650,179	650,179	0	-	447,509	-	
3 公営競技収益配分金等管理会計	4,038	4,020	18	-	-	-	
4 地方消費税清算会計	701,448	699,013	2,435	-	-	-	
5 水源環境保全・再生事業会計	8,457	8,333	123	-	8,373	-	
6 市町村自治振興事業会計	10,119	7,208	2,911	-	3,424	1,140	
7 恩賜記念林業振興資金会計	172	48	124	-	-	-	
8 林業改善資金会計	64	0	64	-	-	-	
9 沿岸漁業改善資金会計	167	10	157	-	-	-	
10 災害救助基金会計	40	40	0	-	-	-	
11 母子父子寡婦福祉資金会計	651	337	314	-	12	3,283	
12 介護保険財政安定化基金会計	1	1	0	-	-	-	
13 中小企業資金会計	2,603	2,099	504	-	-	5,569	
14 県営住宅事業会計	18,794	18,183	610	-	145	60,433	
15 地方独立行政法人神奈川県立病院機構職員基金会計	4,833	4,833	0	-	-	37,585	
16							実質赤字額
計 一般会計等(純計)	2,559,067	2,344,956	214,110	72,032	-	4,218,760	-

\*一般会計等(純計)は、各会計の相互間の繰入・繰出等の重複を控除したものであり、各会計の合計と一致しない場合がある。

公営企業会計等の財政状況(単位:百万円)

会計名	総収益(歳入)	総費用(歳出)	純損益(形式収支)	資金剰余額/不足額(実質収支)	他会計等からの繰入金	企業債(地方債)現在高	左のうち一般会計等繰入見込額	資金不足比率	備考
1 国民健康保険事業会計	724,972	697,029	27,943	27,943	52,750	-	-	-	
2 水道事業会計	53,173	49,750	3,423	17,564	-	102,755	-	-	法適用企業
3 電気事業会計	7,421	6,724	697	18,220	-	2,209	-	-	法適用企業
4 公営企業資金等運用事業会計	943	631	312	18,807	-	-	-	-	法適用企業
5 相模川総合開発共同事業会計	1,565	1,565	0	-	-	-	-	-	法適用企業
6 酒匂川総合開発事業会計	1,144	1,144	0	-	-	-	-	-	法適用企業
7 流域下水道事業会計	23,002	23,002	0	1,130	2,657	25,249	24,849	-	法適用企業
8									
9									
10									
11									
12									
13									
14									
15									
16									
17									
18									
19									
20									
21									
22									
23									
24									
25									
26									
27									
28									
29									
30									
31									
32									
33									
34									
35									
36									
37									
38									
39									
40									
41									
42									
43									
44									
45									
46									
47									
48									
49									
50									
51									
52									
53									
54									
55									
56									
57									
58									
59									
60									
61									
62									
63									
64									
65									
66									
67									
68									
69									
70									
71									
72									
73									
74									
75									
76									
77									
78									
79									
80									
81									
82									
計 公営企業会計等				83,664					連結実質赤字額

関係する一部事務組合等の財政状況(単位:百万円)

一部事務組合等名	総収益(歳入)	総費用(歳出)	純損益(形式収支)	資金剰余額/不足額(実質収支)	他会計等からの繰入金	企業債(地方債)現在高	左のうち一般会計等繰入見込額	備考
1								
2								
3								
4								
5								
6								
7								
8								
9								
10								
11								
12								
13								
14								
15								
16								
17								
18								
19								
20								
計 一部事務組合等								

地方公団・第三セクター等の経営状況及び地方公共団体の財政的支援の状況(単位:百万円)

地方公団・第三セクター等名	経常損益	純資産又は正味財産	当該団体からの出資金	当該団体からの補助金	当該団体からの貸付金	当該団体からの債務保証に係る債務残高	当該団体からの損失補償に係る債務残高	一般会計等負担見込額	備考
1 〇(一財)神奈川県厚生福利振興会	1	2,161	50	-	-	-	691	69	
2 〇(地独)神奈川県立産業技術総合研究所	188	9,181	9,080	2,776	-	-	-	-	
3 (株)湘南国際村協会	68	672	202	-	-	-	-	-	
4 (公財)宮ヶ瀬ダム周辺振興財団	8	1,917	500	-	-	-	-	-	
5 (公財)かながわ国際交流財団	▲43	4,503	165	39	-	-	-	-	
6 (公財)神奈川県文学振興会	0	170	53	-	-	-	-	-	
7 (公財)神奈川県芸術文化財団	▲108	1,131	600	-	-	-	-	-	
8 (公財)かながわ健康財団	▲5	884	117	34	-	-	-	-	
9 (公財)神奈川県生活衛生営業指導センター	2	33	6	45	-	-	-	-	
10 (一財)あしがら勤労者いこいの村	▲71	28	4	-	-	-	-	-	
11 (公財)神奈川県都市整備技術センター	280	2,006	80	-	-	-	-	-	
12 (株)湘南なぎさパーク	84	2,210	310	-	-	-	-	-	
13 (公財)神奈川県下水道公社	3	143	55	-	-	-	-	-	
14 〇神奈川県道路公社	171	22,317	10,781	-	300	1,069	-	-	
15 神奈川県住宅供給公社	2,589	63,665	15	136	-	-	-	-	
16 (一財)神奈川県教育福祉振興会	455	894	50	-	-	-	-	-	
17 (公財)神奈川県スポーツ協会	▲5	209	2	108	-	-	-	-	
18 (公財)神奈川県暴力団対策センター	6	521	250	11	-	-	56	40	
19 (公財)かながわトラストみどり財団	4	477	300	129	-	-	-	-	
20 (公財)かながわ海岸美化財団	2	1,855	1,400	137	-	-	-	-	
21 〇(公社)神奈川県農業公社	1	105	28	53	-	-	-	-	
22 (公財)神奈川県栽培漁業協会	▲11	652	488	-	-	-	-	-	
23 三崎マリン(株)	16	595	20	-	-	-	-	-	
24 (一社)神奈川県畜産会	3	56	68	4	-	-	-	-	
25 (公財)地球環境戦略研究機関	▲56	3,859	50	86	-	-	-	-	
26 〇(公財)神奈川県産業振興センター	▲86	4,615	300	1,709	3,253	-	-	43	
27 〇(地独)神奈川県立病院機構	3,653	14,186	13,557	16,208	37,585	-	-	6,340	
28 (公財)横浜市建築助成公社	728	26,736	2	-	-	-	-	-	
29 (株)三浦海業公社	▲20	220	100	-	-	-	-	-	
30 〇(大)神奈川県立保健福祉大学	260	4,135	4,119	2,560	-	-	-	-	
31 (一社)神奈川県果実協会	0	87	23	-	-	-	-	-	
32									
33									
34									
35									
36									
37									
38									
39									
40									
41									
42									
43									
44									
45									
46									
47									
48									
49									
50									
51									
52									
53									
54									
55									
56									
57									
58									
59									
60									
61									
62									
63									
64									
65									
66									
67									
68									
69									
70									
71									
72									
73									
74									
75									
76									
77									
78									
79									
80									
81									
82									
計 地方公団・第三セクター等		42,775	24,035	41,138	1,069	747	6,492	0	

# (3) 都道府県財政比較分析表(普通会計決算)

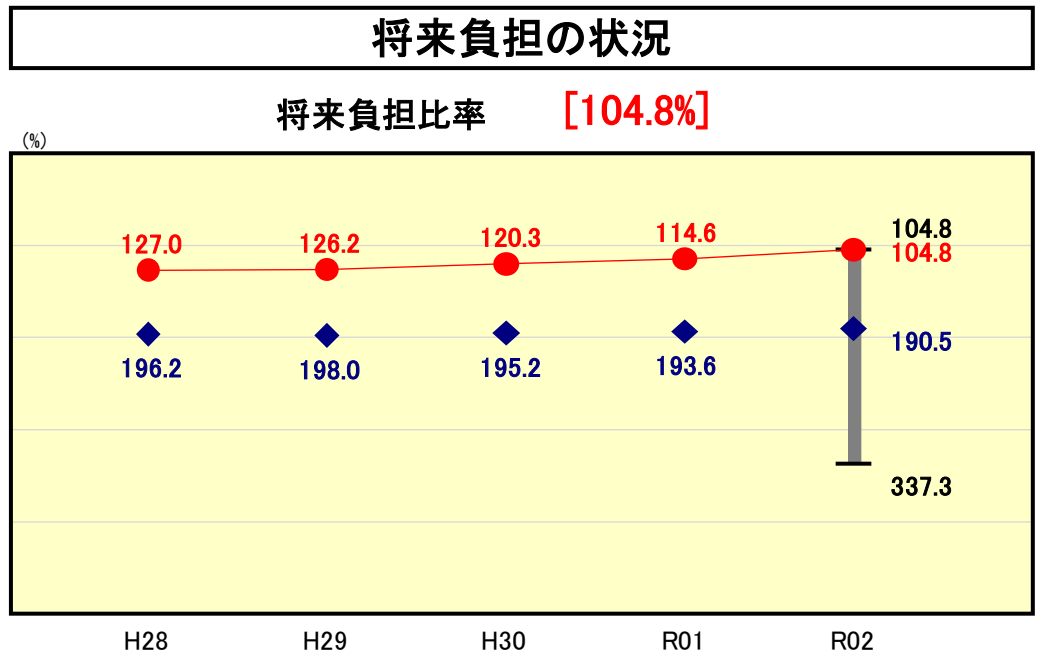
令和2年度

神奈川県

人口	9,220,245人(R3.1.1現在)	実質赤字比率	-%
うち日本人	8,993,479人(R3.1.1現在)	連結実質赤字比率	-%
面積	2,416.11km <sup>2</sup>	実質公債費比率	9.8%
歳入総額	2,554,233,791千円	将来負担比率	104.8%
歳出総額	2,340,123,593千円	グループ	H28 B H29 B H30 B
実質収支	72,032,388千円	(年度毎)	R01 B R02 B
標準財政規模	1,326,342,165千円		
地方債現在高	3,413,876,569千円		

● 当該団体値  
◆ グループ内平均値  
T グループ内の最大値及び最小値

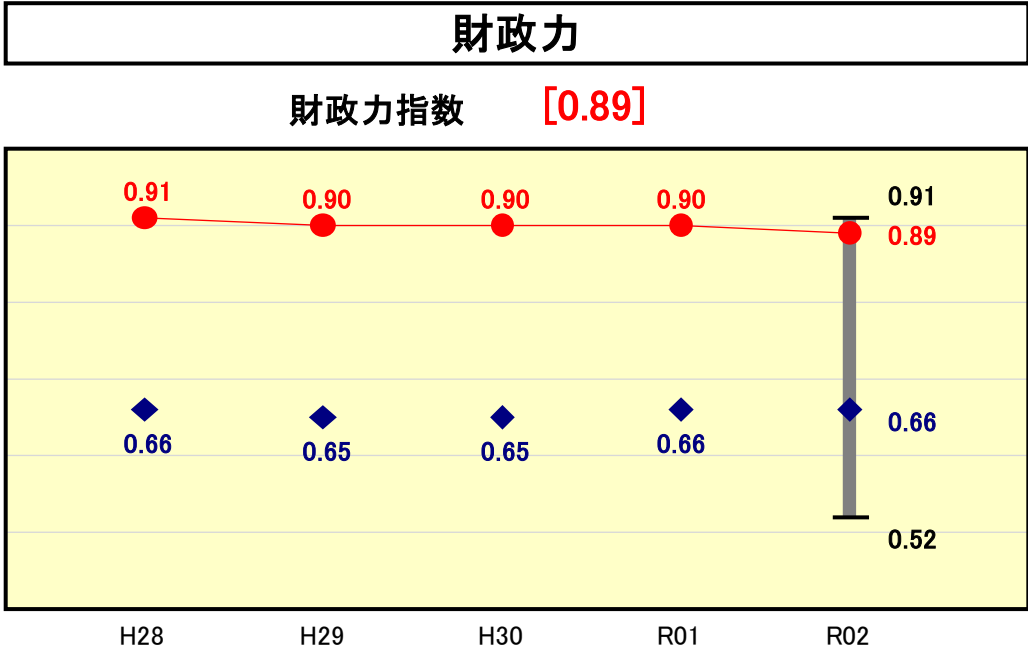
※ グループとは、道府県を財政力指数の高低によって5つに分類したものである。  
〔 Aグループ 1.000以上、Bグループ 0.500以上1.000未満、Cグループ 0.400以上0.500未満、Dグループ 0.300以上0.400未満、Eグループ 0.300未満 〕  
※ 「人件費・物件費等の状況」の決算額は、人件費、物件費及び維持補修費の合計である。ただし、人件費には事業費支弁人件費を含み、退職金は含まない。  
※ 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。  
※ グループ内順位及び都道府県平均は、令和2年度決算の状況である。また同一グループの団体が存在しない場合、グループ内順位を表示しない。



グループ内順位 1/21 都道府県平均 171.3

#### 将来負担比率の分析欄

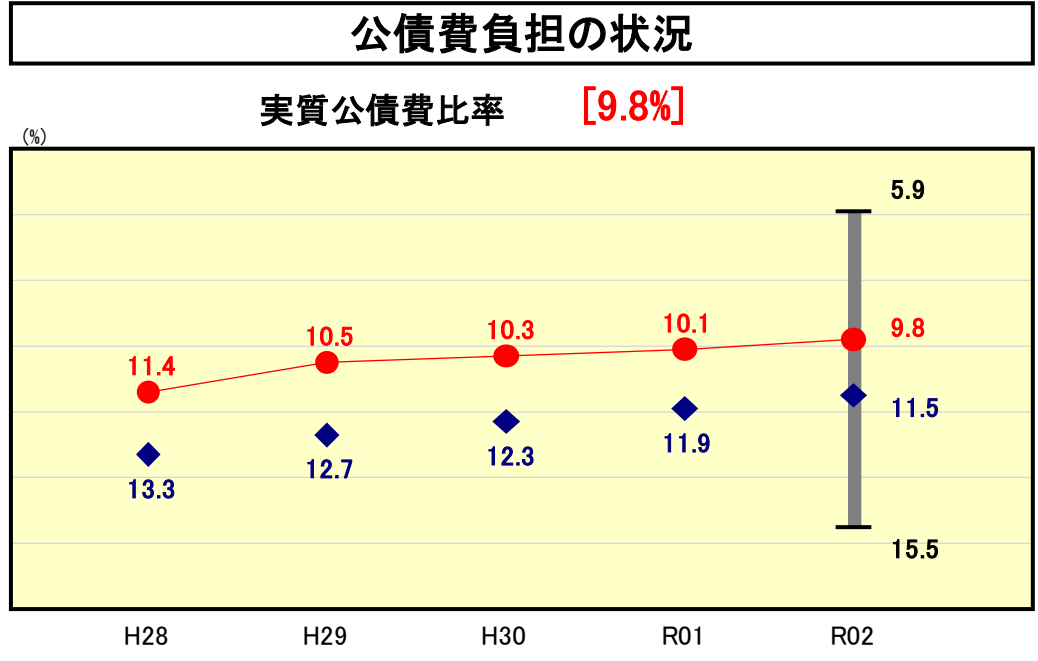
早期健全化基準（400%）を大きく下回っている。県債管理目標を掲げ、県債の発行抑制に努めた結果、交付税措置されない県債現在高が減少したことなどにより、前年度より9.8%減少した。今後も引き続き、県債の発行抑制に努めるなど、健全化に向けて取り組んでいく。



グループ内順位 2/21 都道府県平均 0.52

#### 財政力指数の分析欄

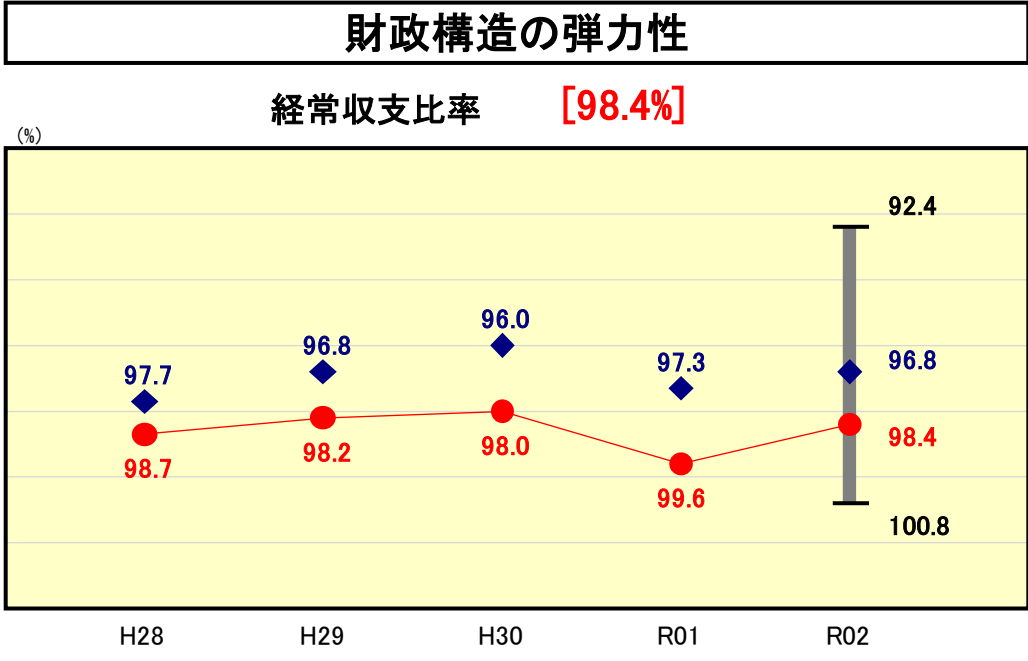
本県は、首都圏に位置し、大規模法人が多いことから、全国的に見て県税収入の割合が高く、財政力指数は0.89と全国平均の0.52の1.7倍、グループ内平均と比較しても1.3倍と、高い財政力を有している。



グループ内順位 6/21 都道府県平均 10.2

#### 実質公債費比率の分析欄

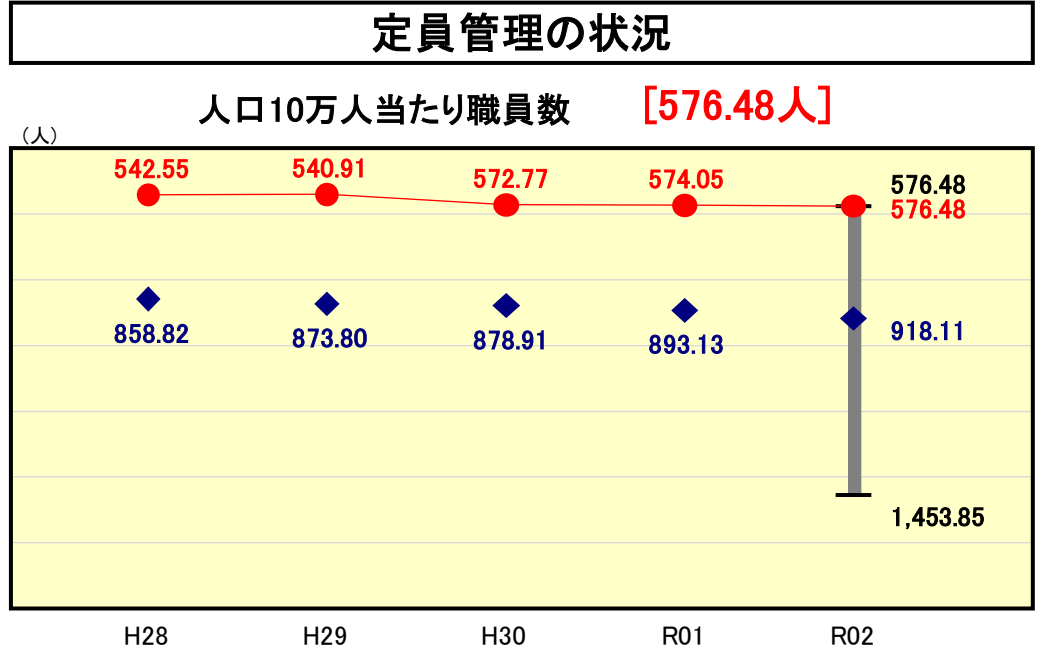
従来から県債の発行抑制に取り組んでおり、実質公債費比率は、9.8%と低い水準にある。過去に発行した臨時財政対策債の償還により、公債費は増加傾向にあるが、公債費負担をできるだけ軽減するため、引き続き、県債の発行抑制に努めていく。



グループ内順位 19/21 都道府県平均 94.4

#### 経常収支比率の分析欄

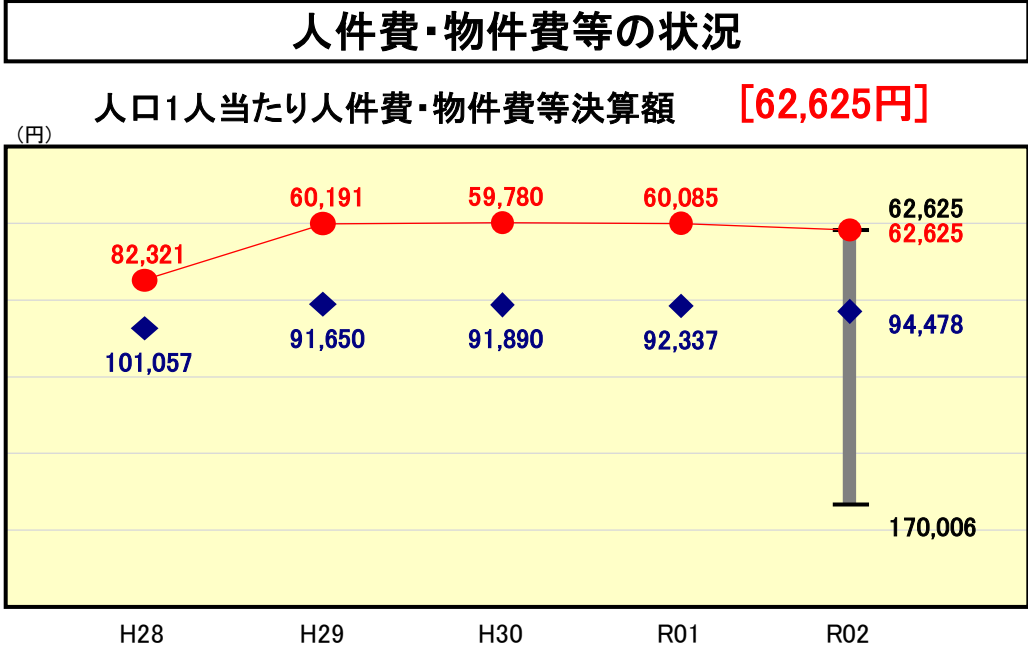
人口規模に応じて配置する警察官や教職員の人件費負担が多いことに加え、社会保障関係費などが増加していることから、経常収支比率は高い数字で推移している。令和2年度は経常収支比率が改善しているが、これは減収補填債（特例分）の発行が主な要因であり、減収補填債（特例分）、猶予特例債、臨時財政対策債を除いて算出した場合の経常収支比率は悪化している。そのため、今後も引き続き、人件費の抑制、県債の発行抑制による公債費削減、施策・事業の見直し等により、経常経費の抑制に努めていく必要がある。



グループ内順位 1/21 都道府県平均 1,068.39

#### 人口10万人当たり職員数の分析欄

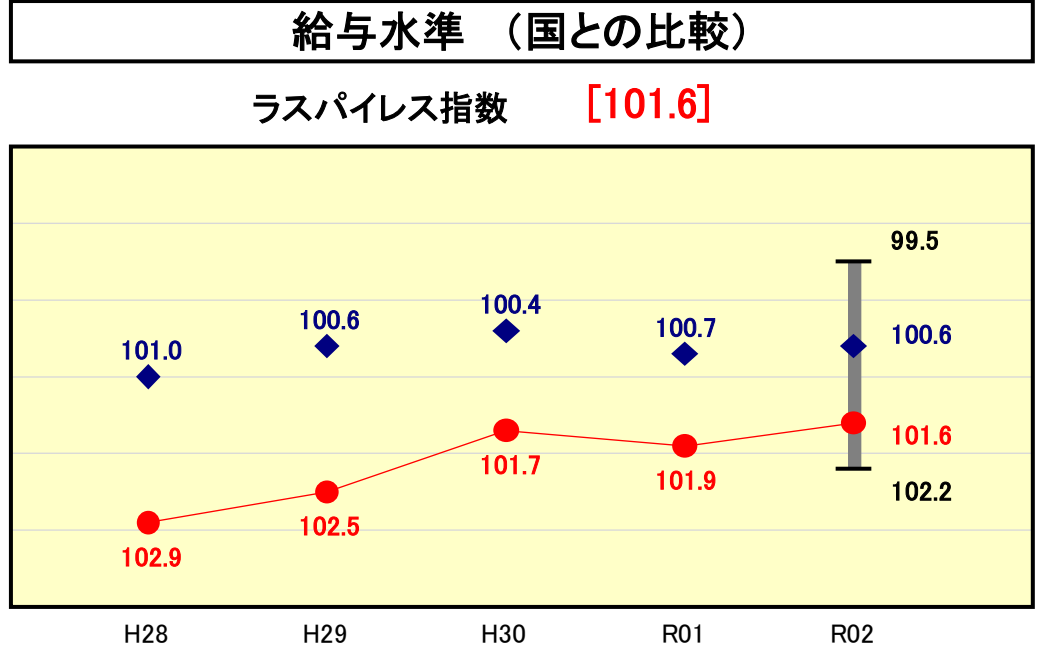
簡素で効率的な県政の実現を目指し、全国に先駆けて平成9年度から行政改革に取り組み、一般行政部門の人口10万人当たり職員数は全国最少となっている。現在は職員・組織・仕事の質を向上させ、行政組織の総合力を高める「質的向上」に着目した改革を進めており、引き続き業務量に応じた適切な定数管理に努めていく。



グループ内順位 1/21 都道府県平均 112,747

#### 人口1人当たり人件費・物件費等決算額の分析欄

人件費、物件費及び維持補修費の合計額の人口1人当たりの金額は62,625円とグループ内団体一低いコストとなっている。主要な要因として、本県では全国に先駆けて平成9年から行政システム改革に取り組み職員数全体の伸びを抑えてきたためである。また、平成29年度の県費負担教職員の給与負担事務の政令市への移譲による影響も一因である。今後も引き続き、行財政改革に取り組んでいく。



グループ内順位 19/21 都道府県平均 99.9

#### ラスパイレス指数の分析欄

職員の採用・退職等により職員階層が変動したことにより、前年度から0.3ポイント減少した。職員の給与水準は県内民間企業との均衡を基本としており、県内民間企業の給与水準は全国平均を上回る状況にあるため、本県のラスパイレス指数は高くなる傾向にあるが、今後も引き続き、給与制度全般にわたり厳正な運用に努めていく。



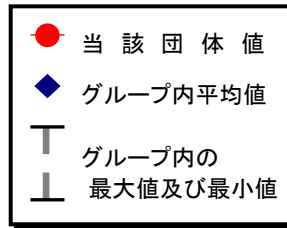
# (4)-1 都道府県経常経費分析表(普通会計決算)

令和2年度

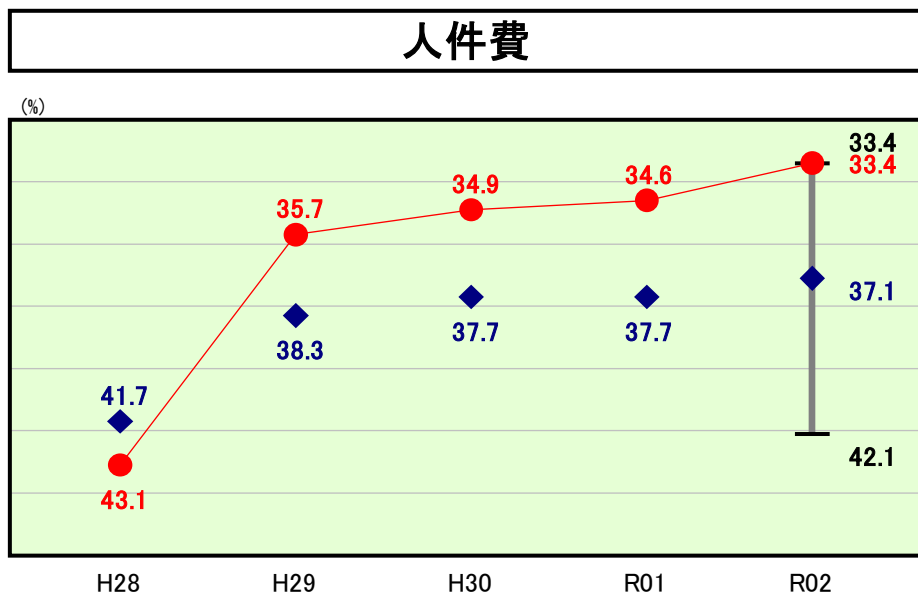
神奈川県

## 経常収支比率の分析

人口	9,220,245	人(R3.1.1現在)	実質赤字比率	-	%	
うち日本人	8,993,479	人(R3.1.1現在)	連結実質赤字比率	-	%	
面積	2,416.11	km <sup>2</sup>	実質公債費比率	9.8	%	
歳入総額	2,554,233,791	千円	将来負担比率	104.8	%	
歳出総額	2,340,123,593	千円	グループ	H28 B	H29 B	H30 B
実質収支	72,032,388	千円	(年度毎)	R01 B	R02 B	
標準財政規模	1,326,342,165	千円				
地方債現在高	3,413,876,569	千円				

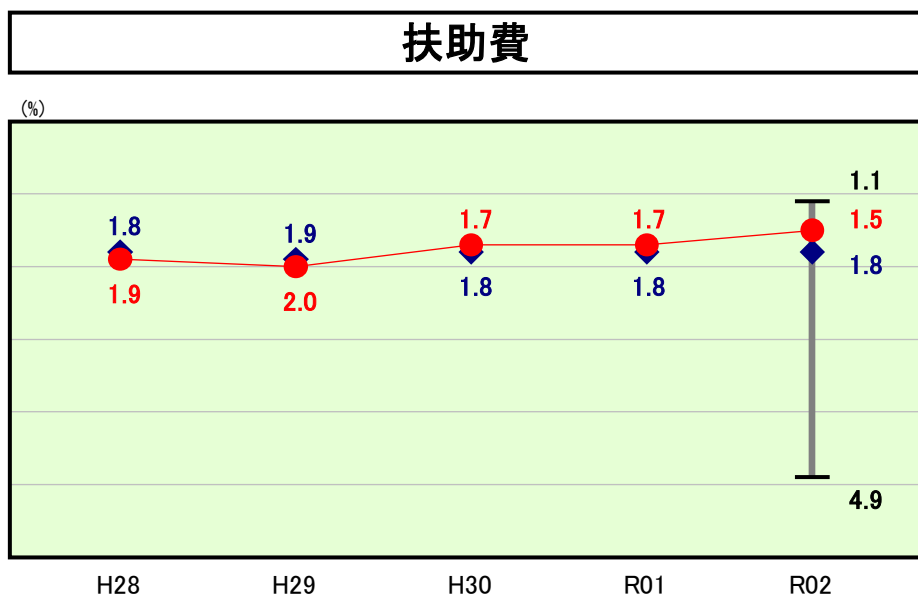


※ グループとは、道府県を財政力指数の高低によって5つに分類したものである。  
 [ Aグループ 1.000以上、Bグループ 0.500以上1.000未満、Cグループ 0.400以上0.500未満、Dグループ 0.300以上0.400未満、Eグループ 0.300未満 ]  
 ※ 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に記載されている人口に基づいている。  
 ※ グループ内順位及び都道府県平均は、令和2年度決算の状況である。また同一グループの団体が存在しない場合、グループ内順位を表示しない。



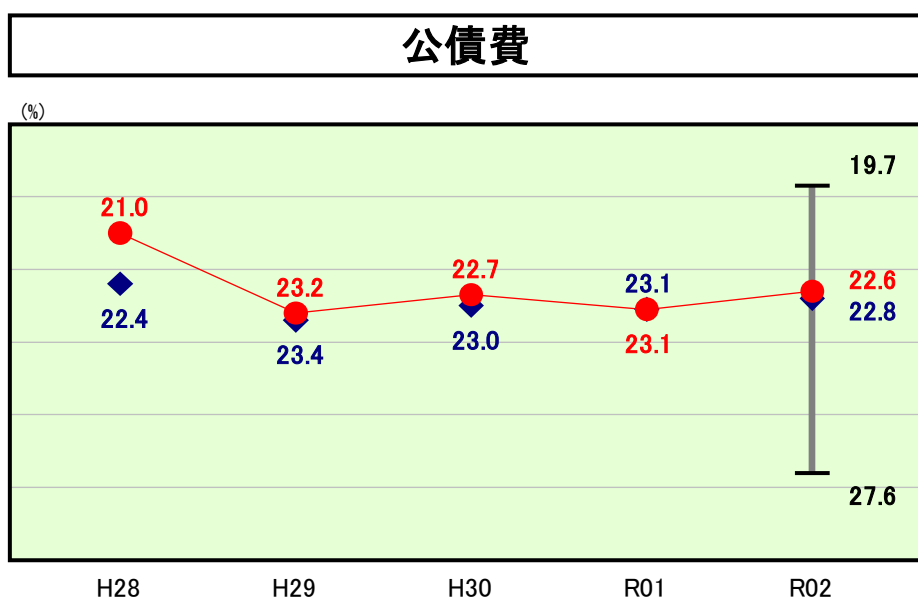
### 人件費の分析欄

全国の人口が減少している中、本県では、引き続き人口が増加しているため、人口規模に応じた多数の教職員や警察職員を配置する必要があることから、平成28年度まではグループ内団体に比べて、人件費に係る経常収支比率が高くなっていましたが、平成29年度の県費負担教職員の給与負担事務の政令市への移譲により大幅に人件費が減少し、令和2年度もグループ内で最も低くなっています。  
 今後も引き続き、人件費の抑制に取り組んでいく。



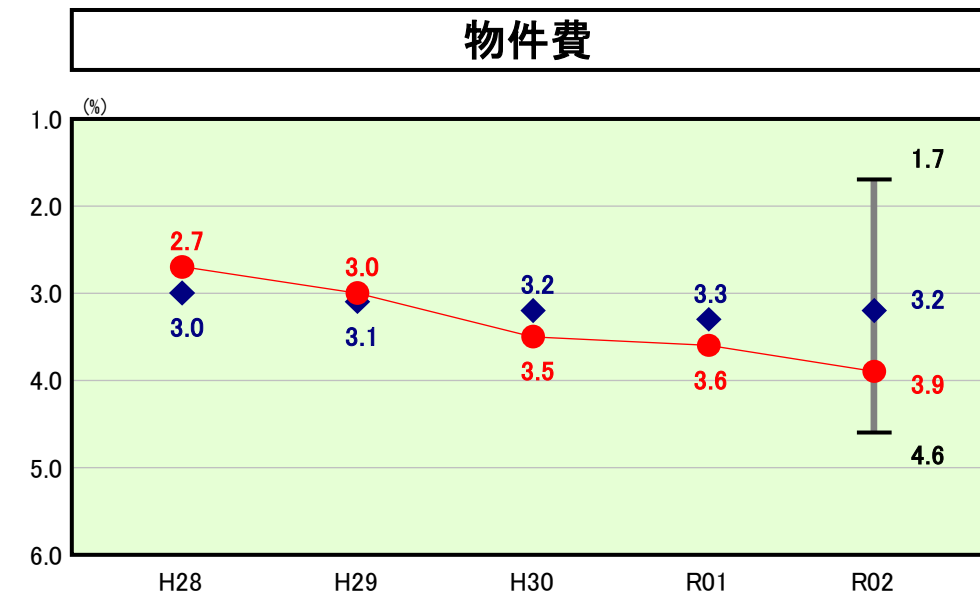
### 扶助費の分析欄

平成30年度から政令市への難病患者医療費に関する事務移譲の影響などにより減少し、グループ内平均を下回り、令和2年度も引き続き下回っている。  
 県民生活に直接かわる経費であるため、今後も引き続き、適切に対応していく。



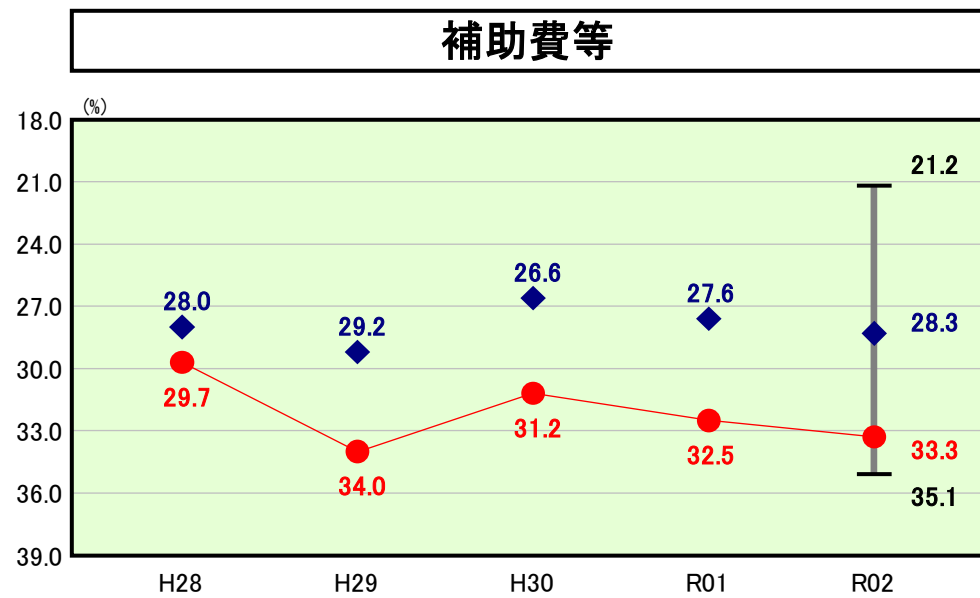
### 公債費の分析欄

県債管理目標として「令和5年度までに県債全体の残高を2兆円台に減少」を掲げて、県債の発行抑制に取り組んでおり、令和2年度は類似団体平均を下回っている。  
 過去に発行した臨時財政対策債の償還により増加傾向にあるが、公債費負担をできるだけ軽減するため、引き続き、県債の発行抑制に努めていく。



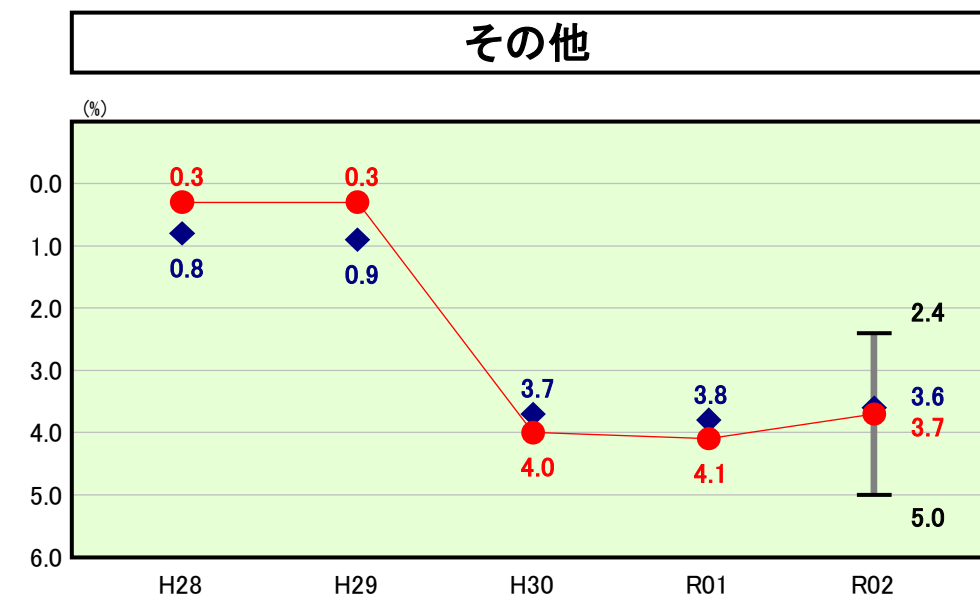
### 物件費の分析欄

これまで徹底した施策・事業の見直しや内部管理経費の削減等の行財政改革に取り組んでいるが、令和2年度は、特別支援学校スクールバス運営費が、新校開設に伴い増便したことによる増の影響などにより、数値が上昇し、引き続き、グループ内平均を上回っている。  
 今後も引き続き、施策・事業の見直しなどに取り組んでいく。



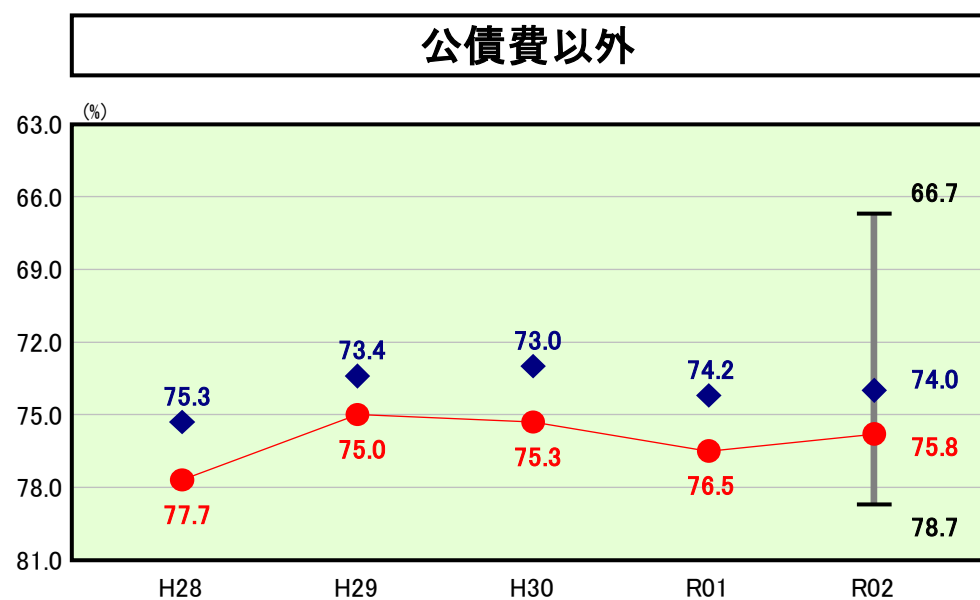
### 補助費等の分析欄

補助費等は、県から市町村や団体などに対する補助金や負担金などの支出であり、平成30年度は、国民健康保険事業の財政運営に都道府県が責任主体として加わったことに伴い、当該事業が新たに普通会計外となった影響などにより数値が低下したものの、令和元年度以降は、幼児教育の無償化への対応等により数値が上昇した。  
 今後も引き続き、県と市町村の役割や団体への補助の必要性などを考慮し、補助金の見直しを進めていく。



### その他の分析欄

平成30年度は国民健康保険事業の財政運営に都道府県が責任主体として加わったことに伴い、当該事業が新たに普通会計外となったことによる繰出金の増などの影響により大幅に数値が上昇したが、令和2年度は、新型コロナウイルス感染症のまん延による受診控えの影響により、国民健康保険都道府県財政調整繰出金が減少したため、低下した。



### 公債費以外の分析欄

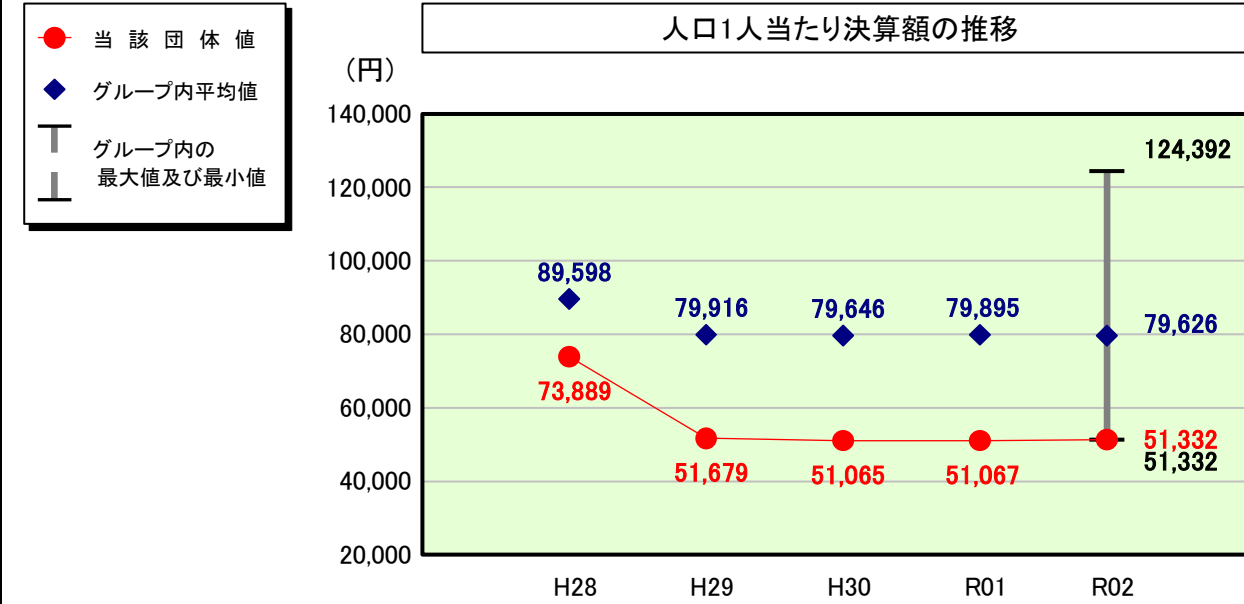
平成29年度に、県費負担教職員の給与負担事務の政令市への移譲より人件費が大幅に減少したため、数値が大きく低下したものの、令和元年度は、幼児教育の無償化への対応等により数値が上昇した。令和2年度は、幼児教育無償化の平年度化に伴い、補助費等が大きく増加したものの、減収補填債の大量発行等により経常的収支充当一般財源等も増加したため、比率としては低下した。  
 今後も施策・事業の見直しに取り組むなど、健全な財政運営に努めていく。

# (4)-2 都道府県経常経費分析表(普通会計決算)

令和2年度

神奈川県

## 人件費及び人件費に準ずる費用の分析



## 人件費及び人件費に準ずる費用

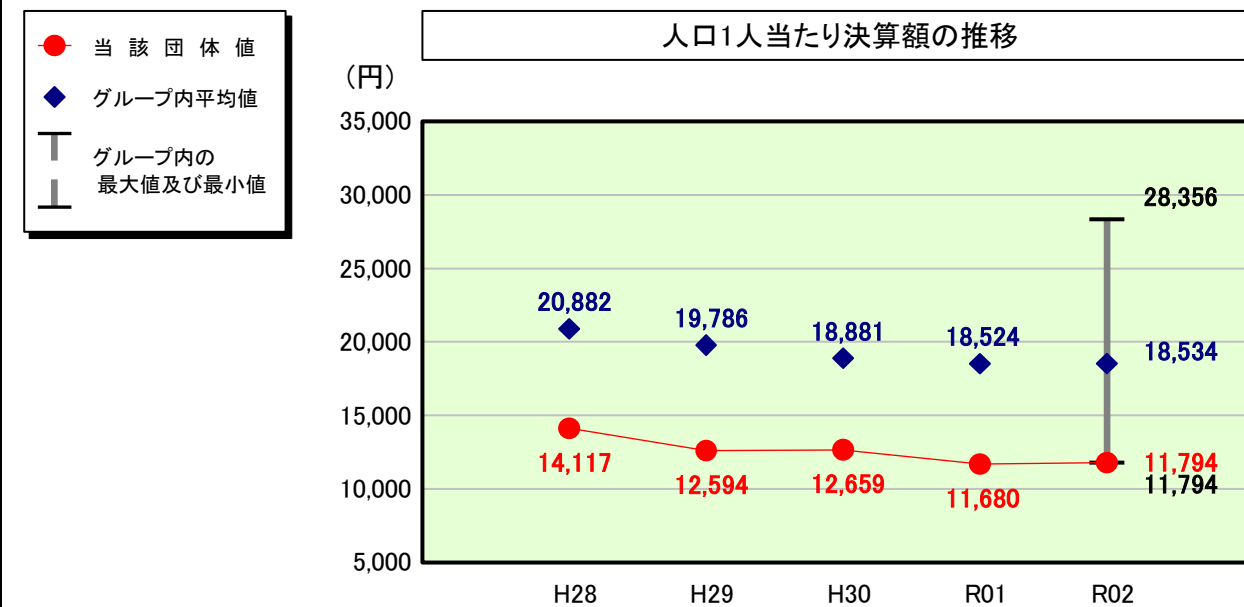
	当該団体決算額 (千円)	人口1人当たり決算額		
		当該団体 (円)	グループ内平均 (円)	対比 (%)
人件費	506,327,313	54,915	84,919	▲ 35.3
公営企業(法適)等に対する繰出し(補助費等)	438,043	48	594	▲ 91.9
公営企業(法適)等に対する繰出し(投資及び出資金・貸付金)	-	-	-	-
公営企業(法非適)等に対する繰出し(繰出金)	-	-	8	-
事業費支弁に係る職員の人件費(投資的経費)	3,539,220	384	1,144	▲ 66.4
▲退職金	▲ 37,010,367	▲ 4,014	▲ 7,039	▲ 43.0
合計	473,294,209	51,332	79,626	▲ 35.5

## 参考

	当該団体	グループ内平均	対比(差引)
人口100,000人当たり職員数(人)	576.48	918.11	▲ 341.63
ラスパイレス指数	101.6	100.6	1.0

(注) 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。

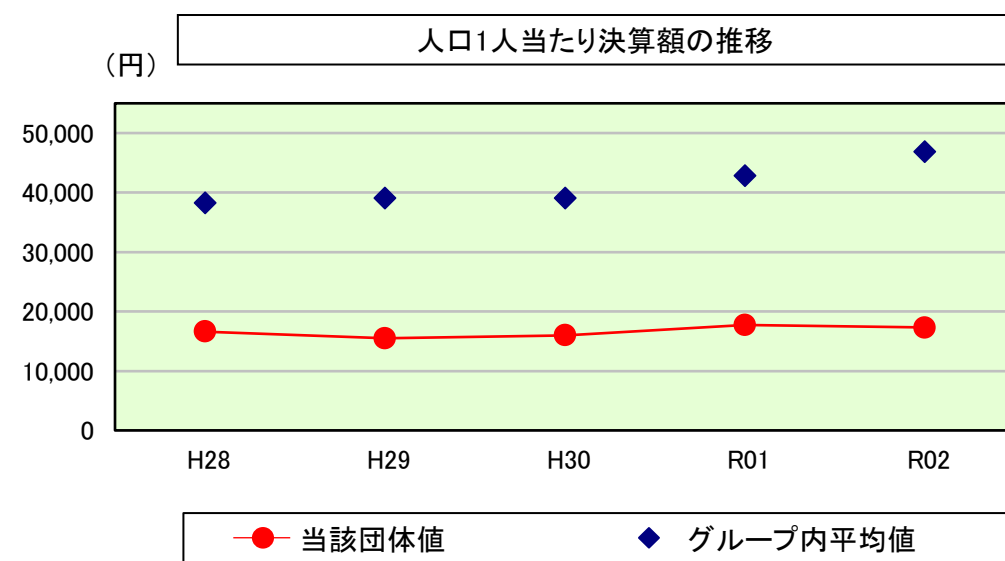
## 公債費及び公債費に準ずる費用の分析



## 公債費及び公債費に準ずる費用(実質公債費比率の構成要素)

	当該団体決算額 (千円)	人口1人当たり決算額		
		当該団体 (円)	グループ内平均 (円)	対比 (%)
元利償還金の額 (繰上償還額等を除く)	113,654,056	12,327	25,939	▲ 52.5
積立不足額を考慮して算定した額	9,509,023	1,031	1,693	▲ 39.1
満期一括償還地方債の一年当たりの元金償還金に相当するもの (年度割相当額)	163,476,940	17,730	19,271	▲ 8.0
公営企業に要する経費の財源とする地方債の償還の財源に 充てたと認められる繰入金	2,657,003	288	905	▲ 68.2
一部事務組合等の起こした地方債に充てたと認められる 補助金又は負担金	-	-	52	-
公債費に準ずる債務負担行為に係るもの	1,881,701	204	426	▲ 52.1
一時借入金利子 (同一団体における会計間の現金運用に係る利子は除く)	-	-	1	-
▲特定財源の額	▲ 5,087,929	▲ 552	▲ 1,801	▲ 69.4
▲地方債に係る元利償還金及び準元利償還金に要する経費として 普通交付税の額の算定に用いる基準財政需要額に算入された額	▲ 177,344,652	▲ 19,234	▲ 27,953	▲ 31.2
合計	108,746,142	11,794	18,534	▲ 36.4

## (参考) 普通建設事業費の分析



## 普通建設事業費

	当該団体決算額 (千円)	人口1人当たり決算額				
		当該団体(円)	増減率(%) (A)	グループ内平均(円)	増減率(%) (B)	(A)-(B)
H28	152,136,177	16,617	11.3	38,259	4.1	7.2
うち単独分	87,678,493	9,577	19.7	13,379	▲ 0.2	19.9
H29	142,079,856	15,492	▲ 6.8	39,075	2.1	▲ 8.9
うち単独分	78,746,369	8,586	▲ 10.3	13,441	0.5	▲ 10.8
H30	146,862,359	15,982	3.2	39,072	0.0	3.2
うち単独分	89,838,543	9,776	13.9	14,106	4.9	9.0
R01	163,249,251	17,726	10.9	42,833	9.6	1.3
うち単独分	89,646,198	9,734	▲ 0.4	15,211	7.8	▲ 8.2
R02	159,321,812	17,280	▲ 2.5	46,888	9.5	▲ 12.0
うち単独分	82,677,445	8,967	▲ 7.9	14,375	▲ 5.5	▲ 2.4
過去5年間平均	152,729,891	16,619	3.2	41,225	5.1	▲ 1.9
うち単独分	85,717,410	9,328	3.0	14,102	1.5	1.5

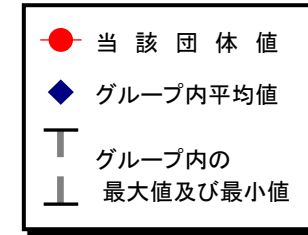


# (5) 都道府県性質別歳出決算分析表(住民一人当たりのコスト)

令和2年度

神奈川県

人口	9,220,245 人(R3.1.1現在)	実質赤字比率	- %
うち日本人	8,993,479 人(R3.1.1現在)	連結実質赤字比率	- %
面積	2,416.11 km <sup>2</sup>	実質公債費比率	9.8 %
歳入総額	2,554,233,791 千円	将来負担比率	104.8 %
歳出総額	2,340,123,593 千円	グループ	H28 B H29 B H30 B
実質収支	72,032,388 千円	(年度毎)	R01 B R02 B
標準財政規模	1,326,342,165 千円		
地方債現在高	3,413,876,569 千円		



※ グループとは、道府県を財政力指数の高低によって5つに分類したものである。  
 [ Aグループ 1.000以上、Bグループ 0.500以上1.000未満、Cグループ 0.400以上0.500未満、Dグループ 0.300以上0.400未満、Eグループ 0.300未満 ]

※ 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に記載されている人口に基づいている。  
 ※ グループ内順位及び都道府県平均は、令和2年度決算の状況である。また同一グループの団体が存在しない場合グループ内順位を表示しない。



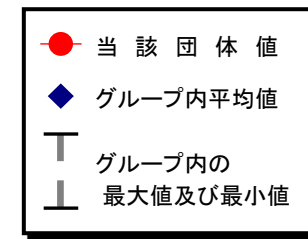
**性質別歳出の分析欄**  
 歳出決算総額は、住民一人当たり253,803円となっている。  
 人件費は、これまでグループ内団体と比較して低い水準で推移している。さらに、平成29年度からは県費負担教職員の給与負担事務の政令市への移譲により大幅に減少している。  
 補助費等は、令和2年度は新型コロナウイルス対策事業の影響により大幅に増加している。  
 普通建設事業費は、県内に3つの政令市を抱え道路建設などは政令市が担っていることから、グループ内平均と比べて低い水準で推移している。  
 投資及び出資金は、高速道路建設の進捗に伴い、県出資金が減少したことなどにより減少している。

# (6) 都道府県目的別歳出決算分析表(住民一人当たりのコスト)

令和2年度

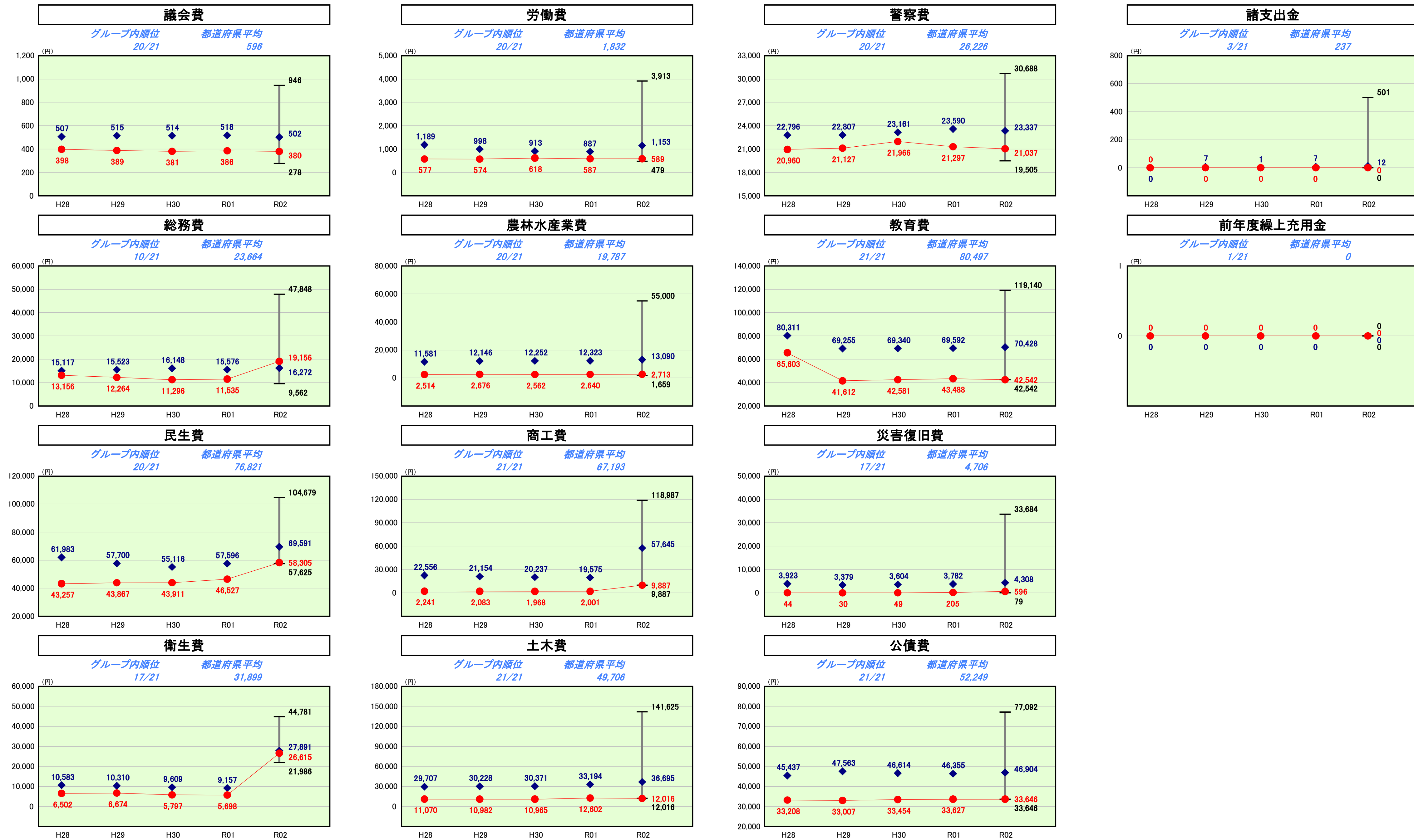
神奈川県

人口	9,220,245 人(R3.1.1現在)	実質赤字比率	- %
うち日本人	8,993,479 人(R3.1.1現在)	連結実質赤字比率	- %
面積	2,416.11 km <sup>2</sup>	実質公債費比率	9.8 %
歳入総額	2,554,233,791 千円	将来負担比率	104.8 %
歳出総額	2,340,123,593 千円	グループ	H28 B H29 B H30 B
実質収支	72,032,388 千円	(年度毎)	R01 B R02 B
標準財政規模	1,326,342,165 千円		
地方債現在高	3,413,876,569 千円		



※ グループとは、道府県を財政力指数の高低によって5つに分類したものである。  
 [ Aグループ 1.000以上、Bグループ 0.500以上1.000未満、Cグループ 0.400以上0.500未満、Dグループ 0.300以上0.400未満、Eグループ 0.300未満 ]

※ 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に記載されている人口に基づいている。  
 ※ グループ内順位及び都道府県平均は、令和2年度決算の状況である。また同一グループの団体が存在しない場合グループ内順位を表示しない。



**目的別歳出の分析欄**  
 民生費は、グループ内平均を下回っているものの、高齢化に伴う社会保障関係費の増や幼児教育の無償化への対応等により増加傾向であったが、令和2年度については、新型コロナウイルス対策事業の影響によりさらに大幅に増加している。  
 同様に、衛生費及び商工費についても、令和2年度は新型コロナウイルス対策事業の影響により大幅に上昇している。  
 公債費は過去に発行した臨時財政対策債の償還により増加傾向にあるが、県債の発行抑制に取り組んでおり、グループ内平均と比べて低い水準で推移している。

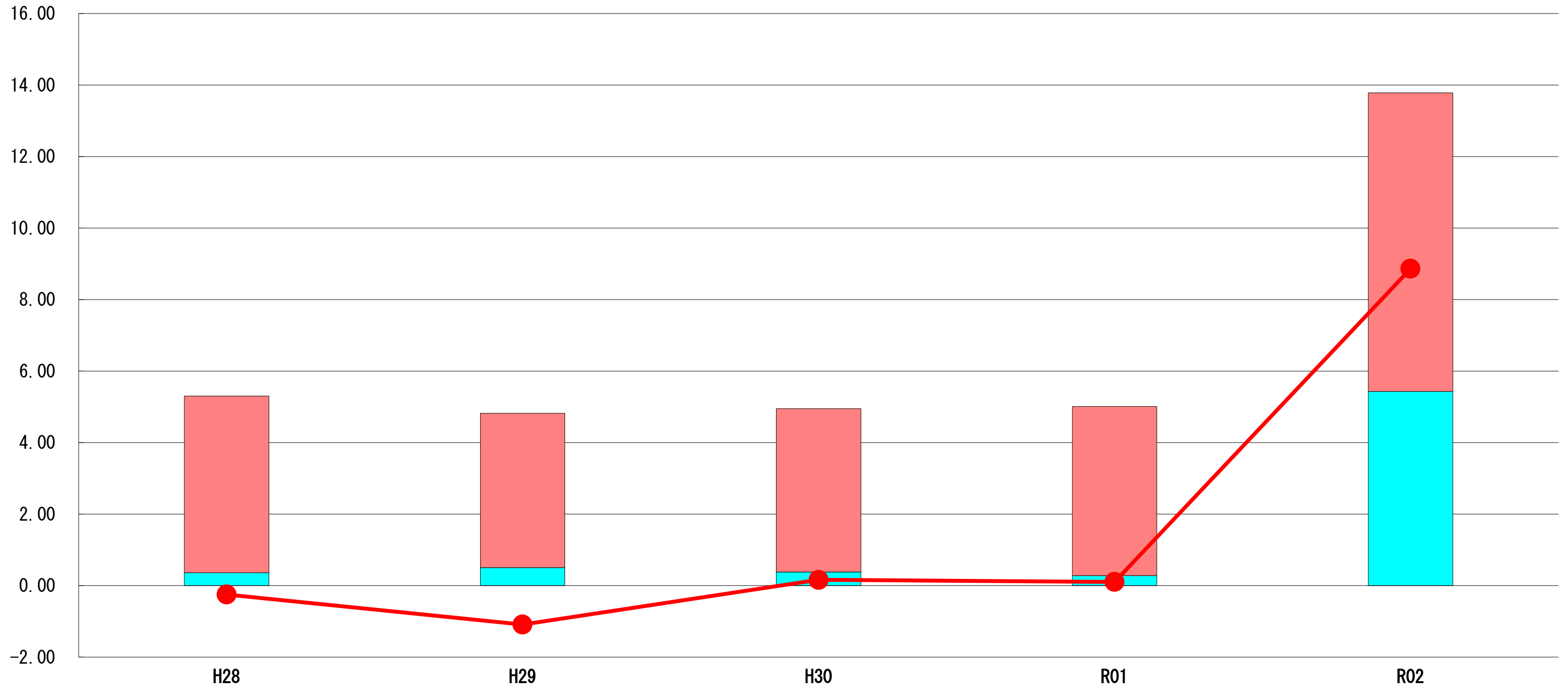


# (7) 実質収支比率等に係る経年分析（都道府県）




令和2年度

神奈川県

標準財政規模比（%）



標準財政規模比（%）

区分	年度	H28	H29	H30	R01	R02
 財政調整基金残高		4.94	4.32	4.57	4.73	8.35
 実質収支額		0.36	0.50	0.38	0.28	5.43
 実質単年度収支		▲ 0.25	▲ 1.09	0.16	0.10	8.86

## 分析欄

実質収支は、標準財政規模比で5.4%と例年以上の規模となった。これは、新型コロナウイルス感染症対応のための国からの補助金について、不用額が生じたことによるものである。

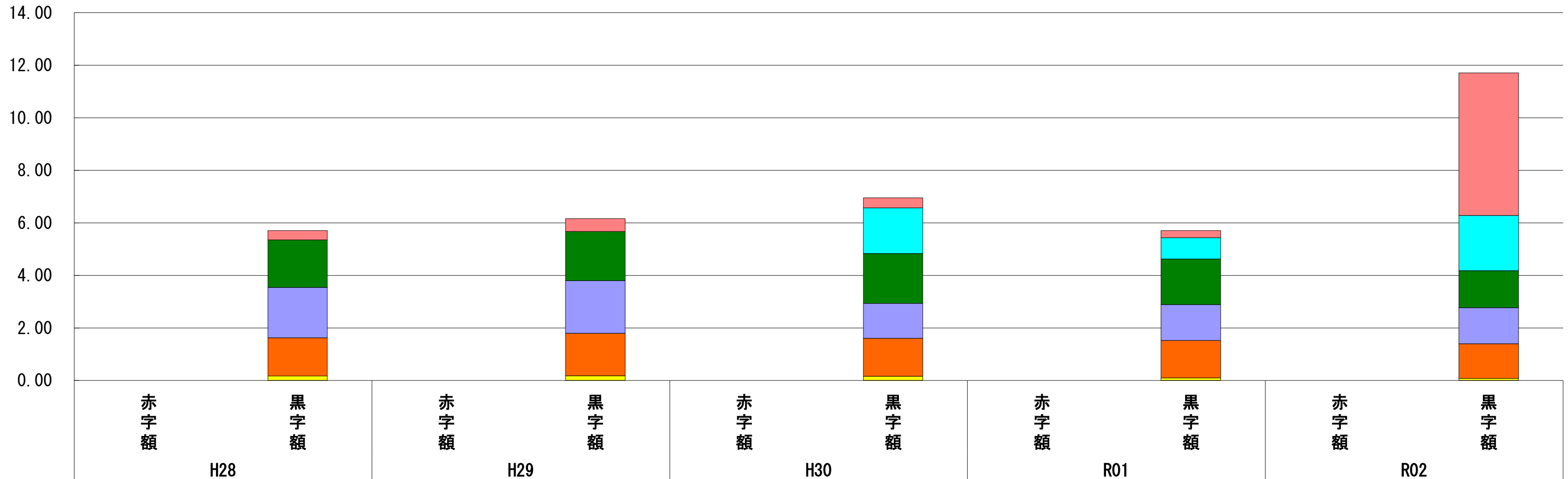
この特殊要因を除いた実質収支は、例年と同程度の規模であり、今後も引き続き、慎重な財政運営に努めていく。

# (8) 連結実質赤字比率に係る赤字・黒字の構成分析（都道府県）

令和2年度

神奈川県

標準財政規模比（％）



標準財政規模比（％）

会計	年度	H28	H29	H30	R01	R02
一般会計		0.36	0.49	0.38	0.28	5.43
国民健康保険事業会計		-	-	1.74	0.81	2.10
公営企業資金等運用事業会計		1.81	1.87	1.90	1.73	1.41
電気事業会計		1.92	2.00	1.32	1.37	1.37
水道事業会計		1.45	1.62	1.45	1.42	1.32
流域下水道事業会計		0.17	0.18	0.16	0.10	0.08
公債管理特別会計		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
公営競技収益配分金等管理会計		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
その他会計（赤字）		-	-	-	-	-
その他会計（黒字）		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

## 分析欄

一般会計の実質収支は黒字である。また、公営事業会計においても、全ての会計で資金不足が生じていないため、連結実質赤字比率は該当がない。

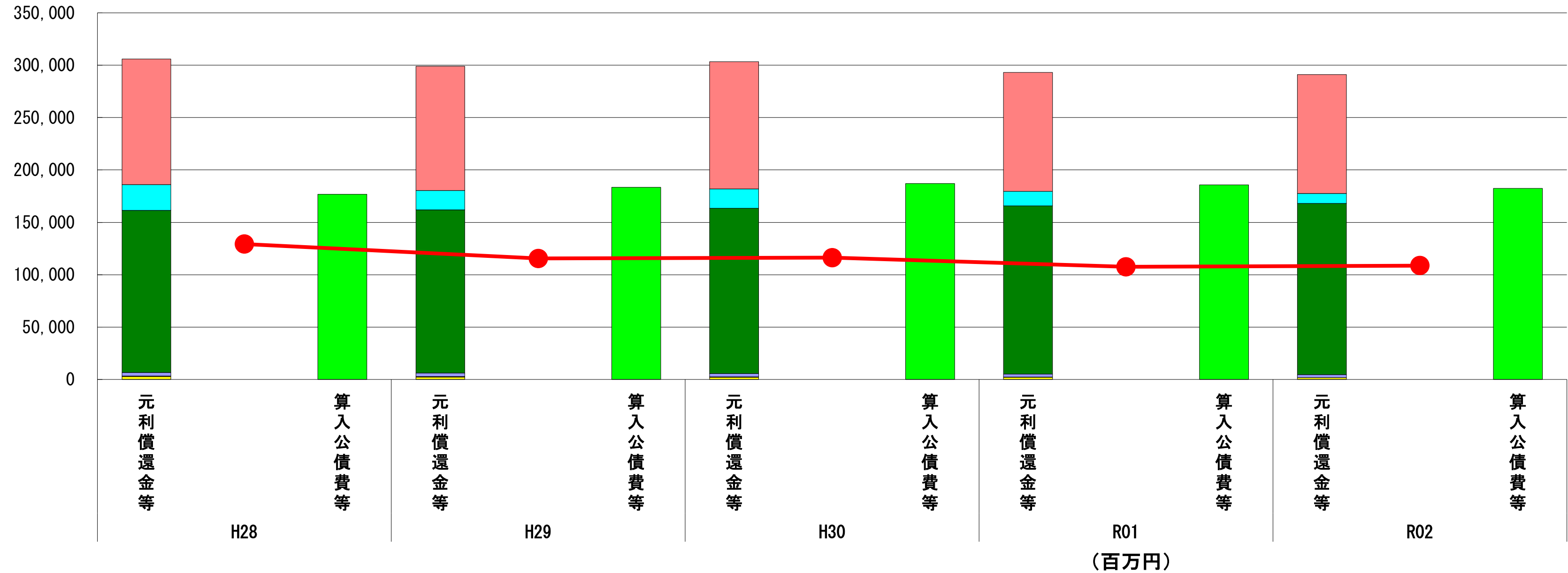
今後も引き続き、慎重な財政運営に努めていく。

(9) 実質公債費比率（分子）の構造（都道府県）

令和2年度

神奈川県

(百万円)



分子の構造		年度	H28	H29	H30	R01	R02
元利償還金等 (A)	元利償還金		120,028	118,519	121,504	113,647	113,654
	減債基金積立不足算定額※		24,593	18,641	18,400	13,968	9,509
	満期一括償還地方債に係る年度割相当額		154,652	155,807	157,815	160,551	163,477
	公営企業債の元利償還金に対する繰入金		3,465	3,267	3,176	2,945	2,657
	組合等が起こした地方債の元利償還金に対する負担金等		560	410	262	139	-
	債務負担行為に基づく支出額		2,687	2,315	2,136	2,009	1,882
	一時借入金の利子		-	-	-	-	-
算入公債費等 (B)	算入公債費等		176,741	183,460	186,960	185,692	182,433
(A) - (B)	実質公債費比率の分子		129,244	115,499	116,333	107,567	108,746

**分析欄**

令和2年度は、算入公債費等の減が元利償還金等の減を上回ったことで、実質公債費比率の分子は増加した。その一方、交付税措置される公債費を除く標準財政規模が増加し、実質公債費比率の分母も増加した。そのため、実質公債費比率は同程度で推移した。

過去に発行した臨時財政対策債の償還により公債費は増加傾向にあるが、公債費負担をできるだけ軽減するため、引き続き、県債の発行抑制に努めていく。

(参考)		年度	H27末	H28末	H29末	H30末	R01末
※ 減債基金積立状況等	減債基金残高(注)		502,509	548,804	620,341	681,710	721,789
	減債基金積立相当額		654,114	690,667	737,759	763,706	779,070

**分析欄**

減債基金積立相当額の積立ルールが30年償還で毎年度の積立額を発行額の30分の1として設定しているのに対して、本県では10年債及び20年債の新規発行及び借替債発行において、3年の据置期間を設定しているため、減債基金残高と減債基金積立相当額に乖離が生じている。

なお、3年度より積立ルールを変更し、据置期間を1年としたため、この乖離は今後は小さくなっていく見込。

(注) 減債基金残高のうち、実質公債費比率の算定に用いる満期一括償還地方債の償還の財源として積み立てた額に係るもののみを記入。減債基金積立金の年度を超えた一般会計又は特別会計への貸付額は控除して記入。

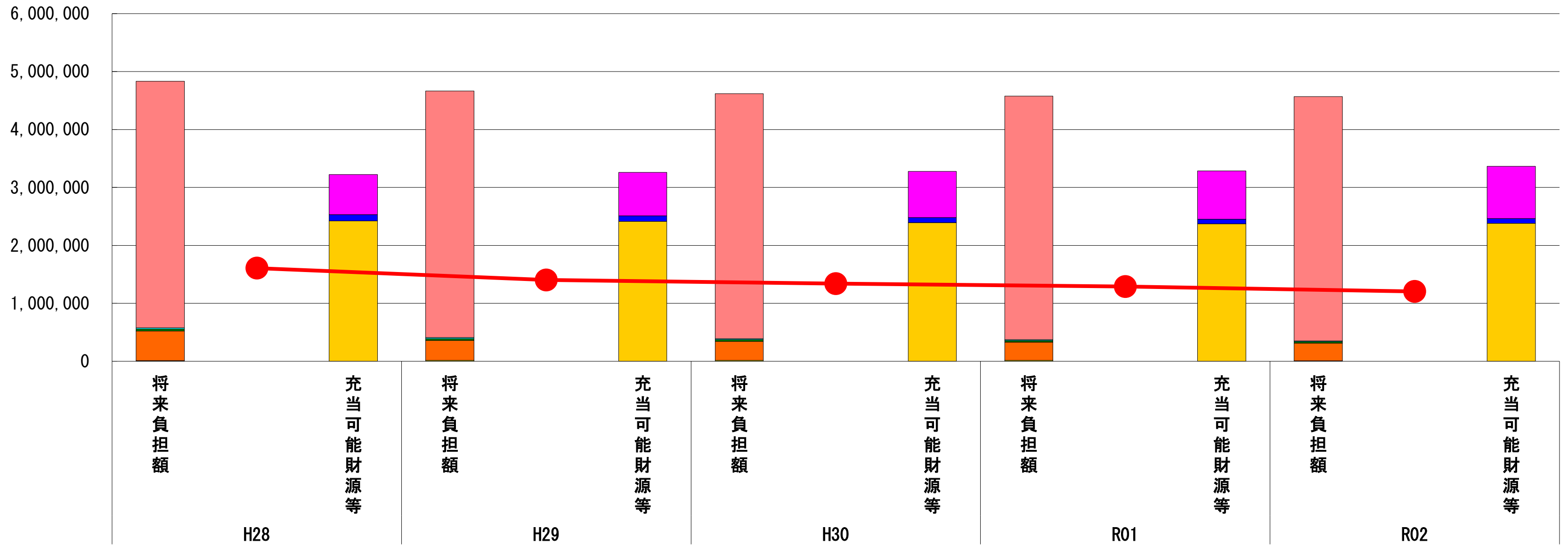


# (10) 将来負担比率（分子）の構造（都道府県）

令和2年度

神奈川県

(百万円)



(百万円)

分子の構造		年度	H28	H29	H30	R01	R02
将来負担額 (A)	一般会計等に係る地方債の現在高		4,255,419	4,256,599	4,229,332	4,204,958	4,218,760
	債務負担行為に基づく支出予定額		20,396	18,548	16,827	15,194	13,651
	公営企業債等繰入見込額		32,713	29,808	27,884	26,268	24,849
	組合等負担等見込額		774	388	137	-	-
	退職手当負担見込額		508,823	344,444	328,796	316,339	305,565
	設立法人等の負債額等負担見込額		12,962	14,599	14,409	14,088	7,608
	うち、健全化法施行規則附則第三条に係る負担見込額		-	-	-	-	-
	連結実質赤字額		-	-	-	-	-
充当可能財源等 (B)	組合等連結実質赤字額負担見込額		-	-	-	-	-
	充当可能基金		693,780	749,957	795,631	836,506	903,767
	充当可能特定歳入		107,932	97,209	89,733	80,376	83,608
	基準財政需要額算入見込額		2,422,781	2,414,161	2,392,735	2,370,658	2,378,330
(A) - (B)	将来負担比率の分子		1,606,592	1,403,060	1,339,286	1,289,308	1,204,728

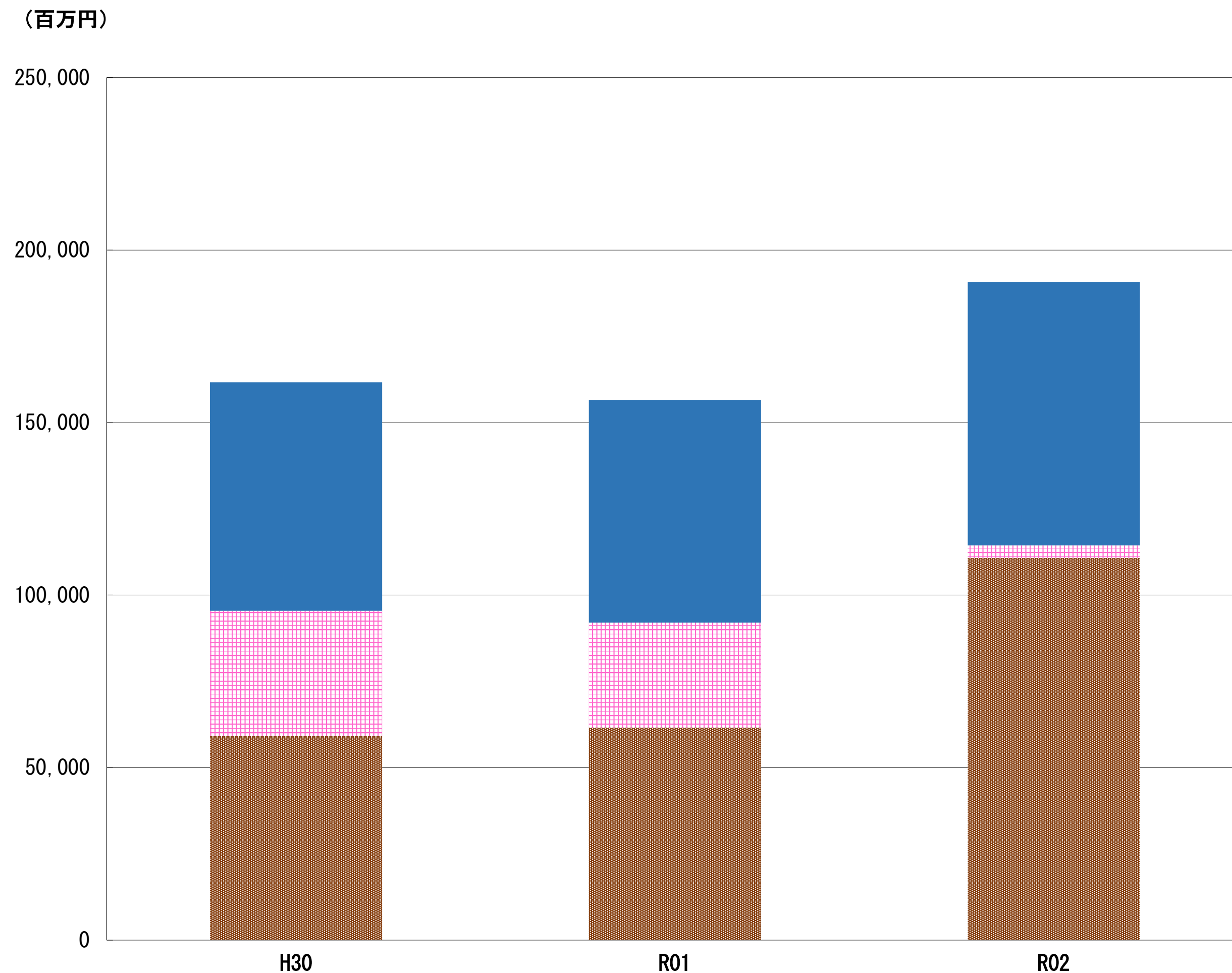
### 分析欄

将来負担額の大部分を占める一般会計等に係る地方債現在高は、本県のこれまでの発行抑制の取組みにより減少傾向にあった。しかし、令和2年度は新型コロナウイルス感染症等の影響により生じた県税等の減収を補うため、地方税減収補填債の対象税目拡大分も含めて発行したこと等により、増加に転じた。

なお、充当可能基金の増加などにより、将来負担比率の分子の額は、引き続き減少している。

今後も引き続き、健全化に向けて取り組んでいく。

# (11) 基金残高（東日本大震災分を含む）に係る経年分析（都道府県）



区分	年度	H30	R01	R02
財政調整基金 減債基金 その他特定目的基金	財政調整基金	59,119	61,633	110,798
	減債基金	36,356	30,460	3,563
	その他特定目的基金	66,237	64,447	76,359
	地域医療介護総合確保基金	17,053	15,625	14,237
	かながわボランティア活動推進基金21	10,752	10,680	10,652
	後期高齢者医療財政安定化基金	7,749	7,750	7,751
神奈川県新型コロナウイルス感染症対応地方創生基金	0	0	7,026	
かながわトラストみどり基金	7,168	7,053	6,956	
基金残高合計		161,712	156,540	190,721

令和2年度

神奈川県

## 基金全体

### （増減理由）

- ・元年度は減債基金を59億円取り崩したこと等により、基金全体で52億円減少した。
- ・2年度は財政調整基金を578億円積み立てたこと、減債基金を336億円取り崩したこと等により、基金全体で342億円増加した。

### （今後の方針）

- ・財政調整基金については、突発的に生じる財政需要に対して必要な施策を講じていくなど、将来への備えとして残高の確保に努めていく。また、特定目的基金については、各基金の目的に従って適正な管理・運用を行っていく。

## 財政調整基金

### （増減理由）

- ・決算剰余金の法定積立等による増（+25億円）。（元年度）
- ・減収補填債等の発行により2年度中に確保した財源を3年度予算の財源として活用するために積み立てたこと等による増（+492億円）。（2年度）

### （今後の方針）

- ・本県では、過去に2,000億円規模の税収減を経験していることから、こうした不測の事態に備えて、県単独で行っている福祉、医療など、県民生活の直結する事業に影響を及ぼさないよう、標準財政規模の5%（2年度：約660億円）を目安とした積立てに努めていく。

## 減債基金

### （増減理由）

- ・償還財源に充当するための取り崩しによる減（△59億円）。（元年度）
- ・償還財源に充当するための取り崩し等による減（△269億円）。（2年度）

### （今後の方針）

- ・将来の償還に備え、必要に応じて積み立てていく。

## その他特定目的基金

### （基金の用途）

- ・地域医療介護総合確保基金：医療及び介護の総合的な確保のための医療機関・公的介護施設の整備、居宅等における医療の提供、医療従事者・介護従事者の確保
- ・かながわボランティア活動推進基金21：公益を目的とする事業に自主的に取り組むボランティア団体等の活動の推進
- ・後期高齢者医療財政安定化基金：後期高齢者医療の財政の安定化
- ・神奈川県新型コロナウイルス感染症対応地方創生基金：新型コロナウイルス感染症のまん延の防止、まん延の影響を受けた住民及び事業者に対する支援
- ・かながわトラストみどり基金：神奈川の優れた自然環境や歴史的環境の保全

### （増減理由）

- ・神奈川県新型コロナウイルス感染症対応地方創生基金：基金の新設による増（+70億円）

### （今後の方針）

- ・地域医療介護総合確保基金：本県が作成した計画に基づき、医療機関・公的介護施設の整備など当該基金を活用し事業を推進していく。
- ・各基金の目的に従い適正な管理・運営を行っていく。

# (12) 都道府県公会計指標分析／財政指標組合せ分析表

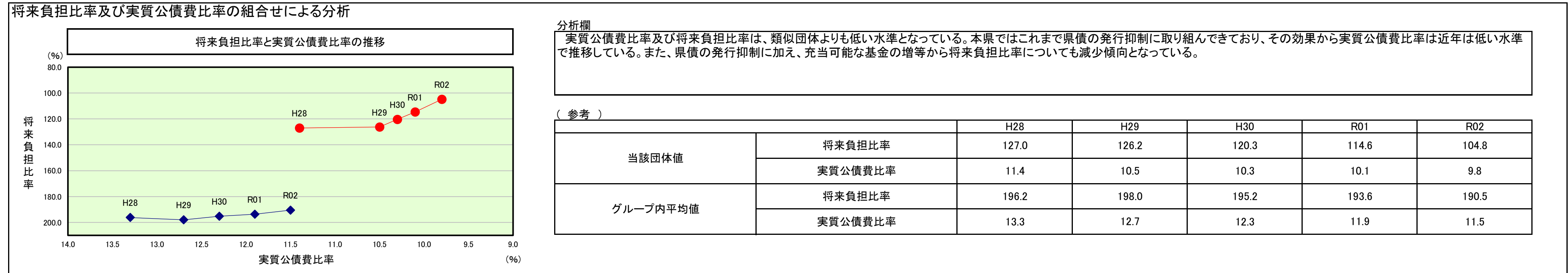
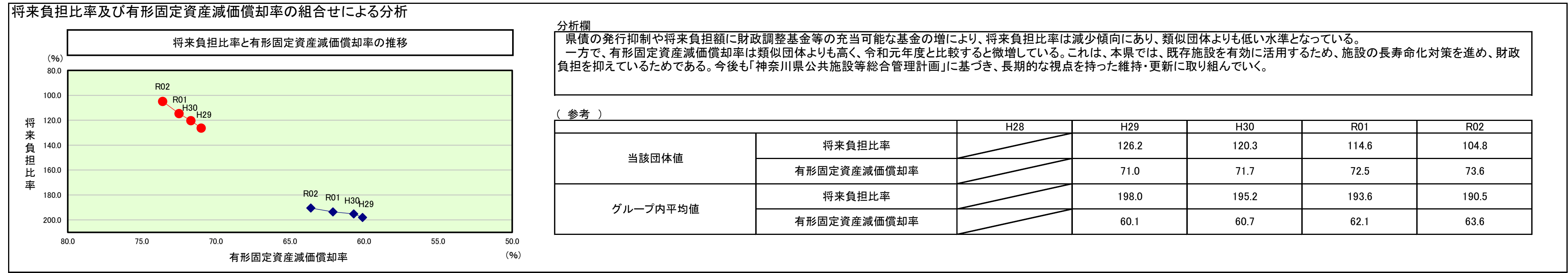
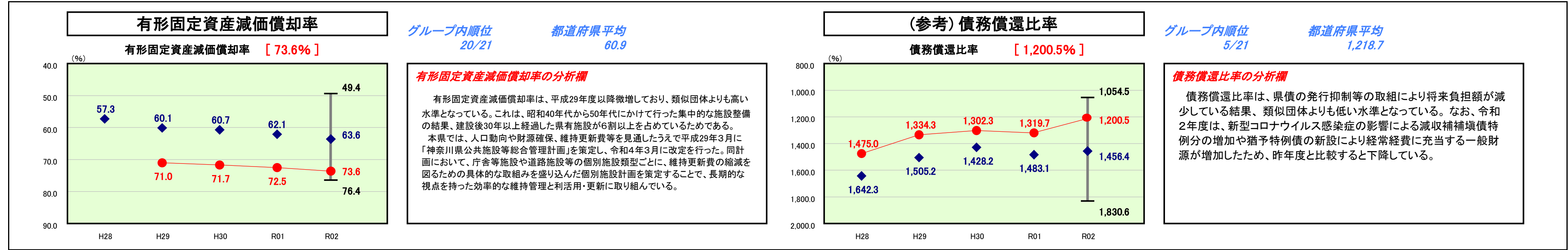
令和2年度

神奈川県

人口	9,220,245	人(R3.1.1現在)	実質赤字比率	-	%
うち日本人	8,993,479	人(R3.1.1現在)	連結実質赤字比率	-	%
面積	2,416.11	km <sup>2</sup>	実質公債費比率	9.8	%
歳入総額	2,554,233,791	千円	将来負担比率	104.8	%
歳出総額	2,340,123,593	千円	グループ	H28 B H29 B H30 B	
実質収支	72,032,388	千円	(年度毎)	R01 B R02 B	
標準財政規模	1,326,342,165	千円			
地方債現在高	3,413,876,569	千円			



※ グループとは、道府県を財政力指数の高低によって5つに分類したものである。  
 [ Aグループ 1.000以上、Bグループ 0.500以上1.000未満、Cグループ 0.400以上0.500未満、Dグループ 0.300以上0.400未満、Eグループ 0.300未満 ]  
 ※ 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。  
 ※ グループ内順位及び都道府県平均は、令和2年度決算の状況である。また同一グループの団体が存在しない場合、グループ内順位を表示しない。  
 ※ グループ関連の数値は、各年度の調査で回答のあった団体に関するもの。





# (13)-1 都道府県施設類型別ストック情報分析表①

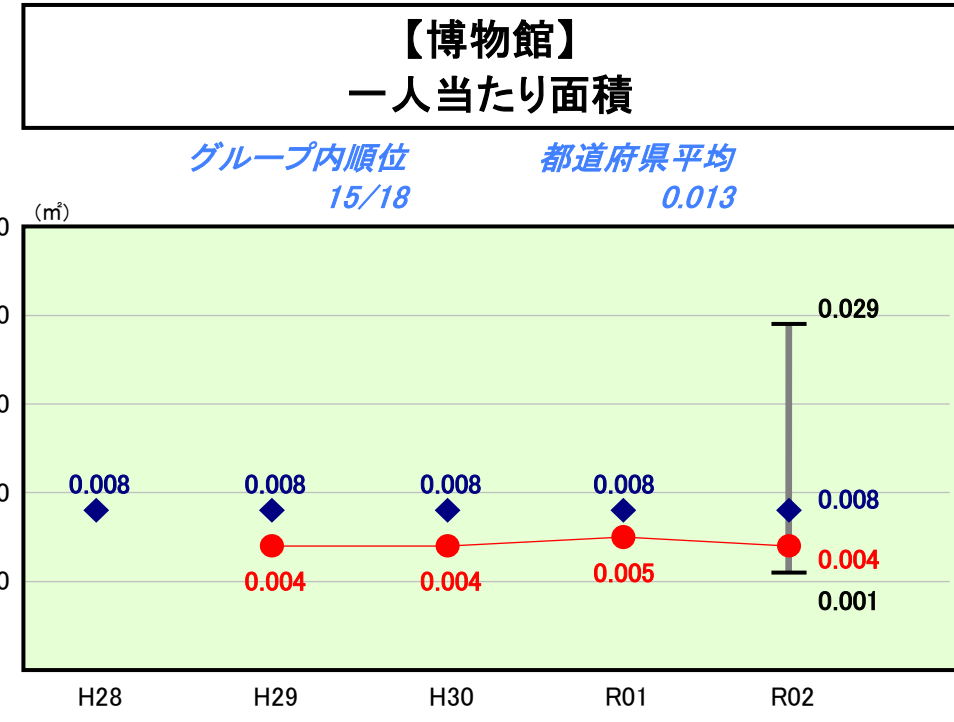
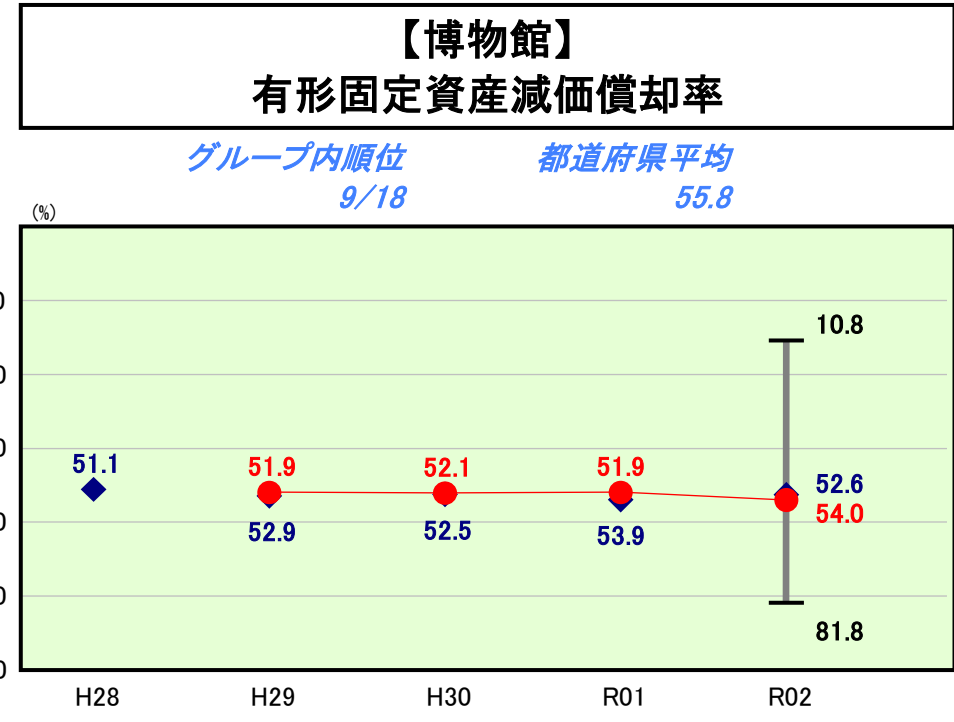
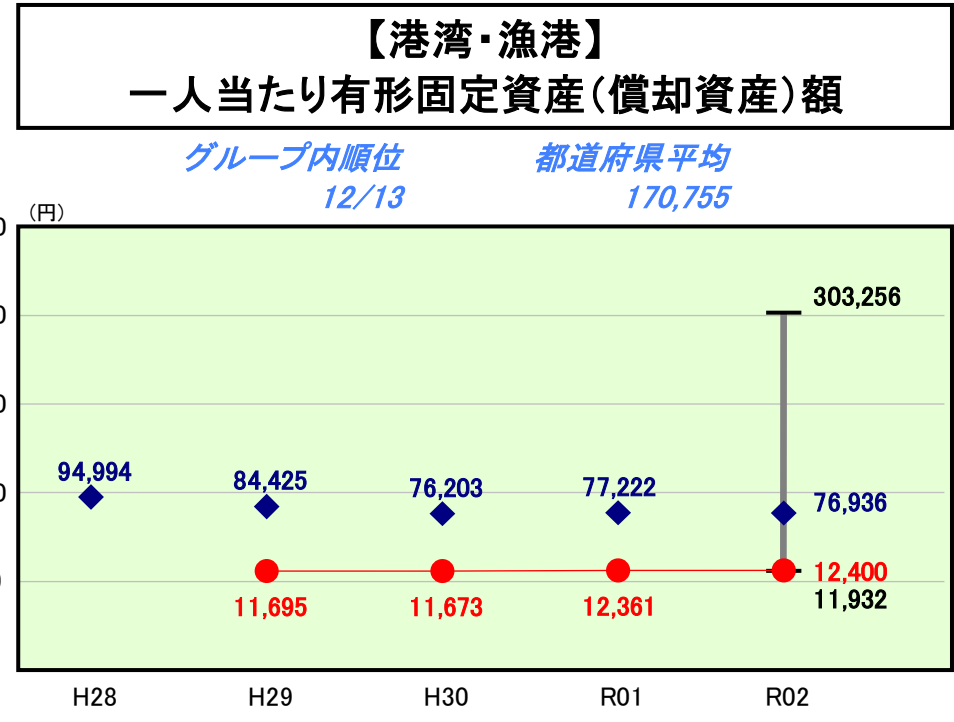
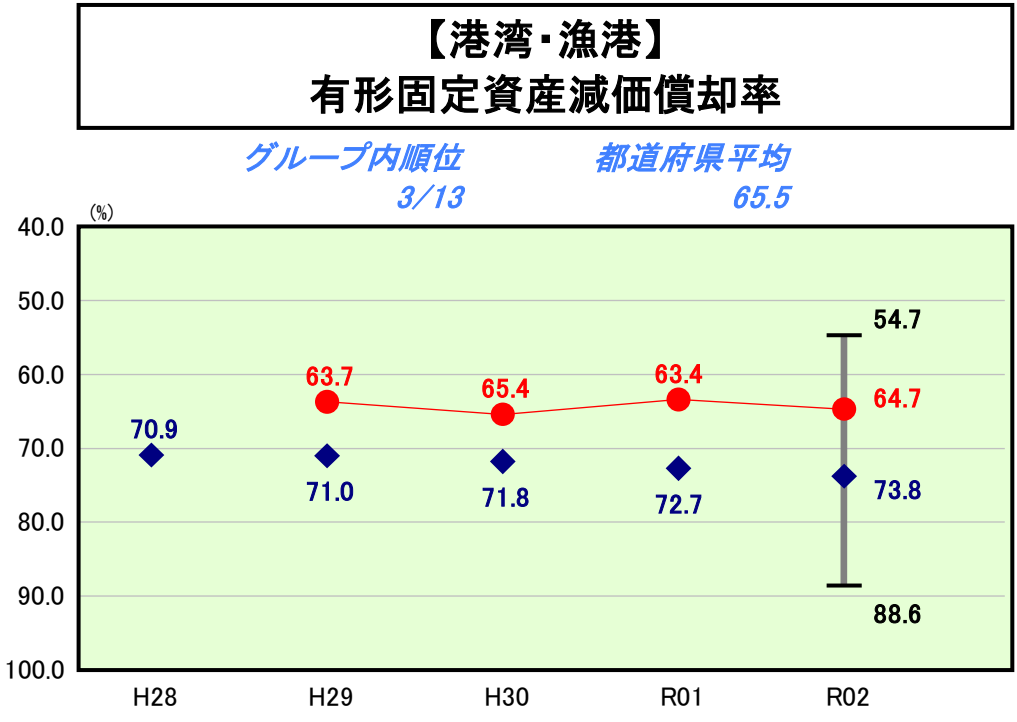
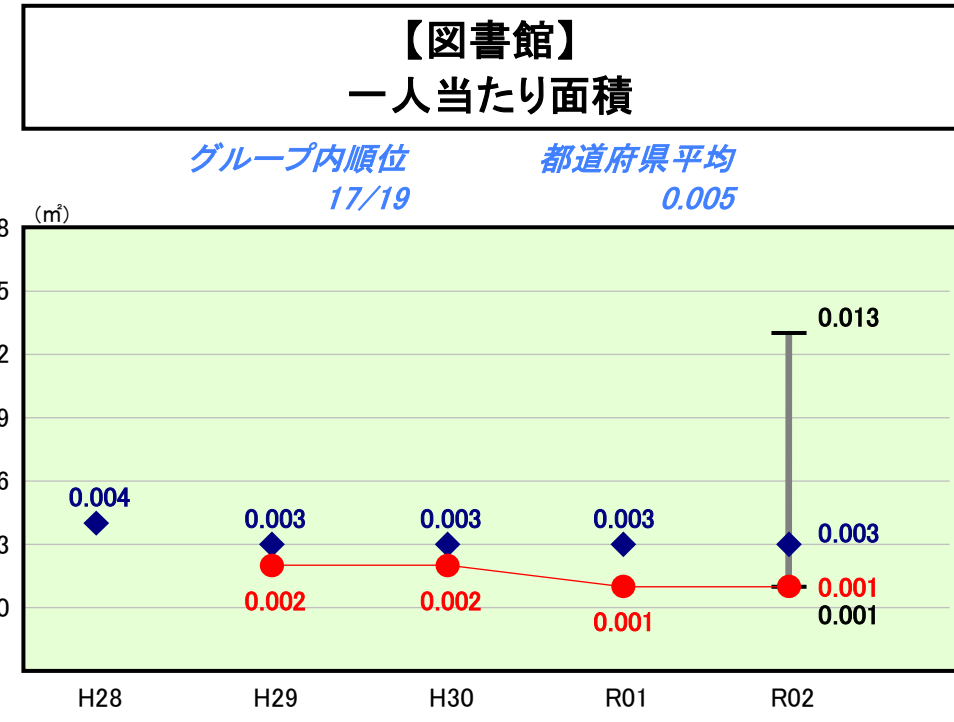
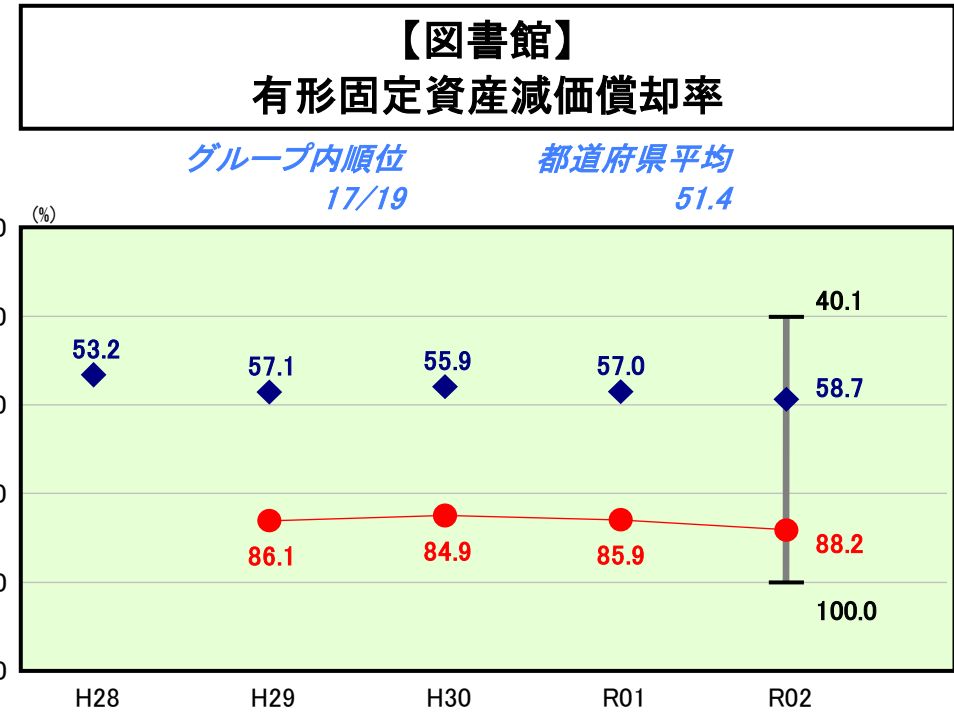
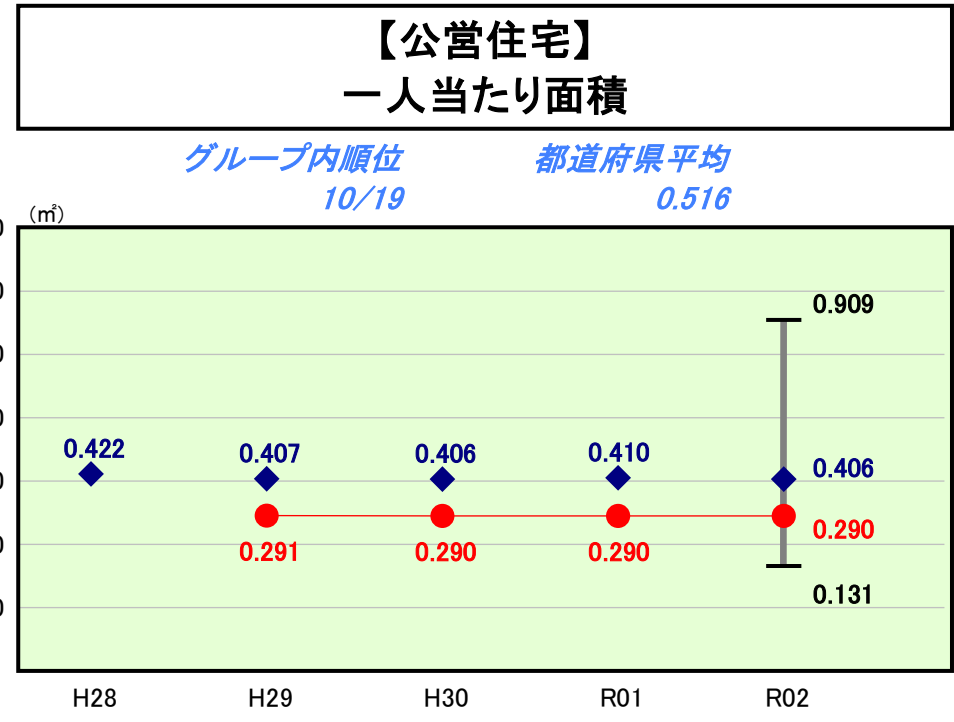
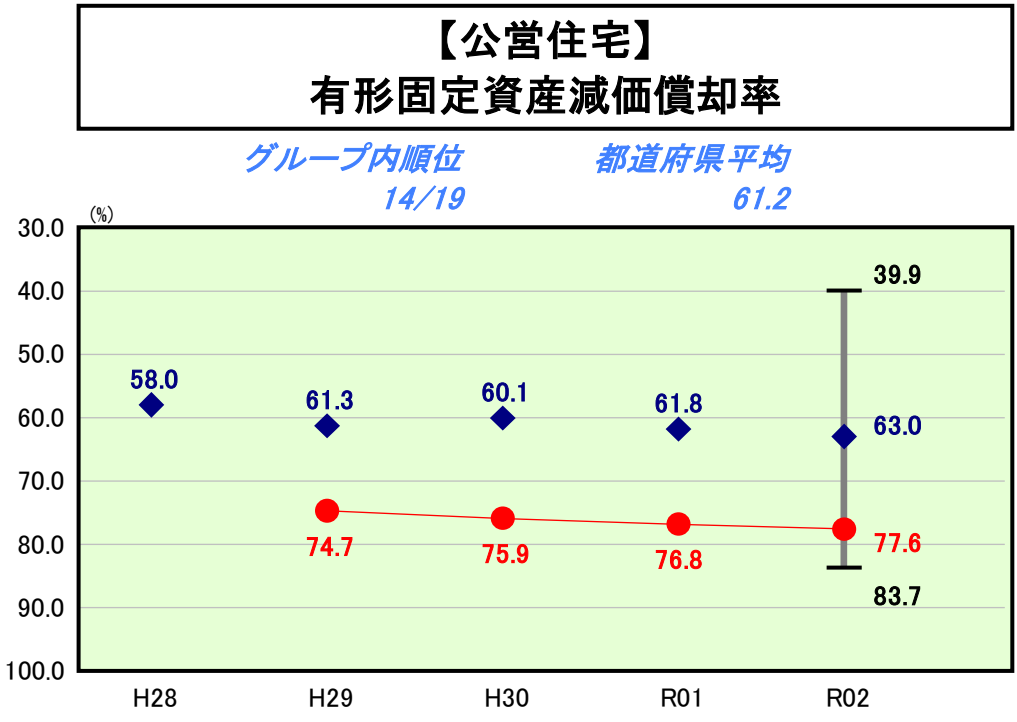
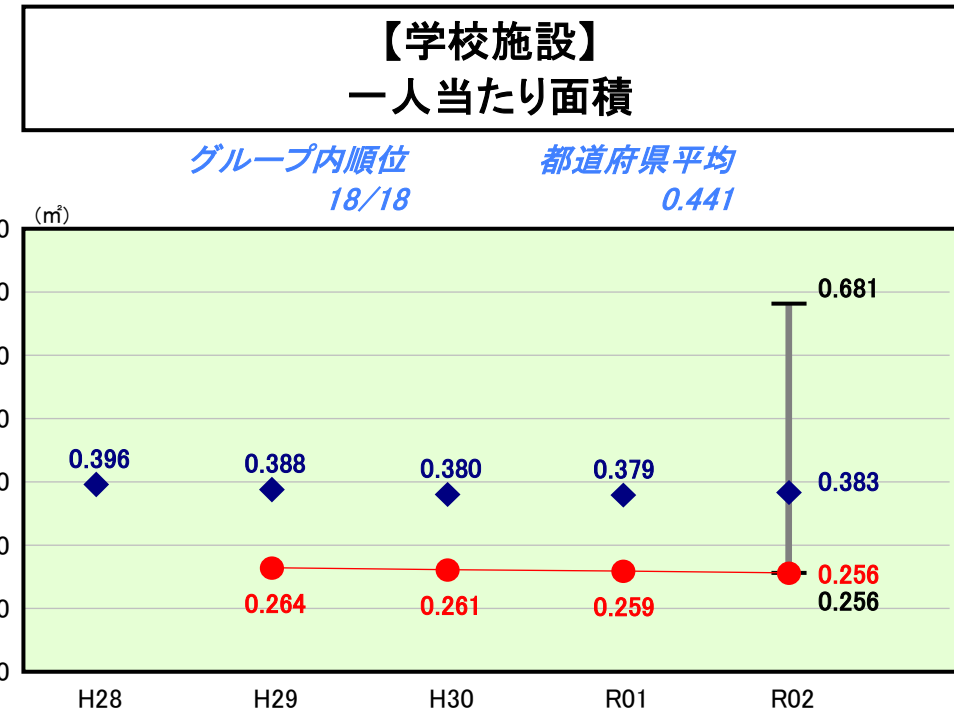
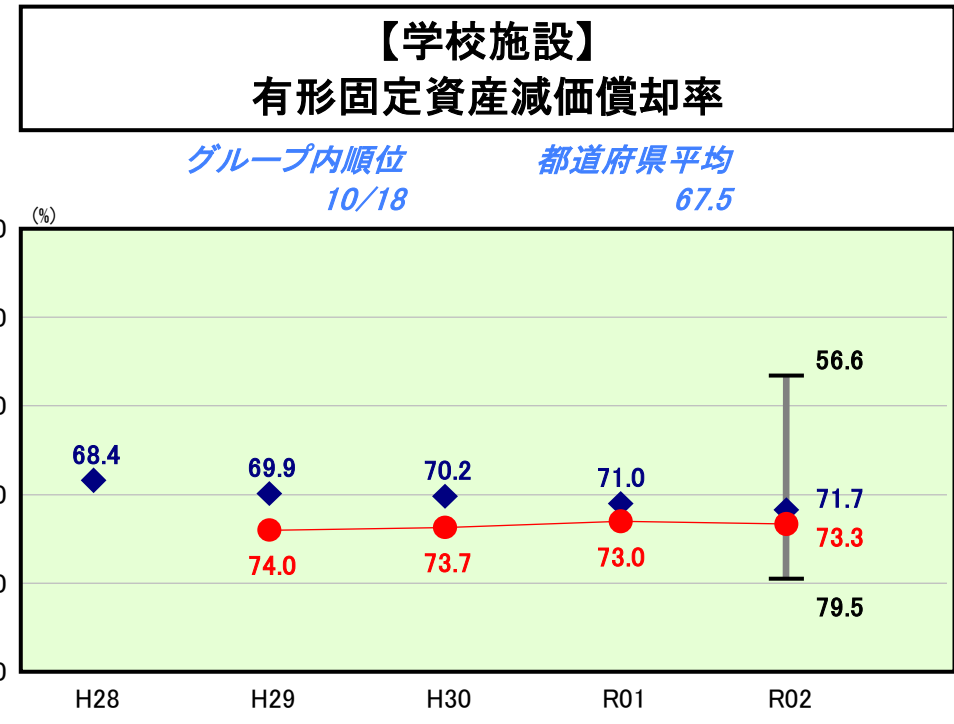
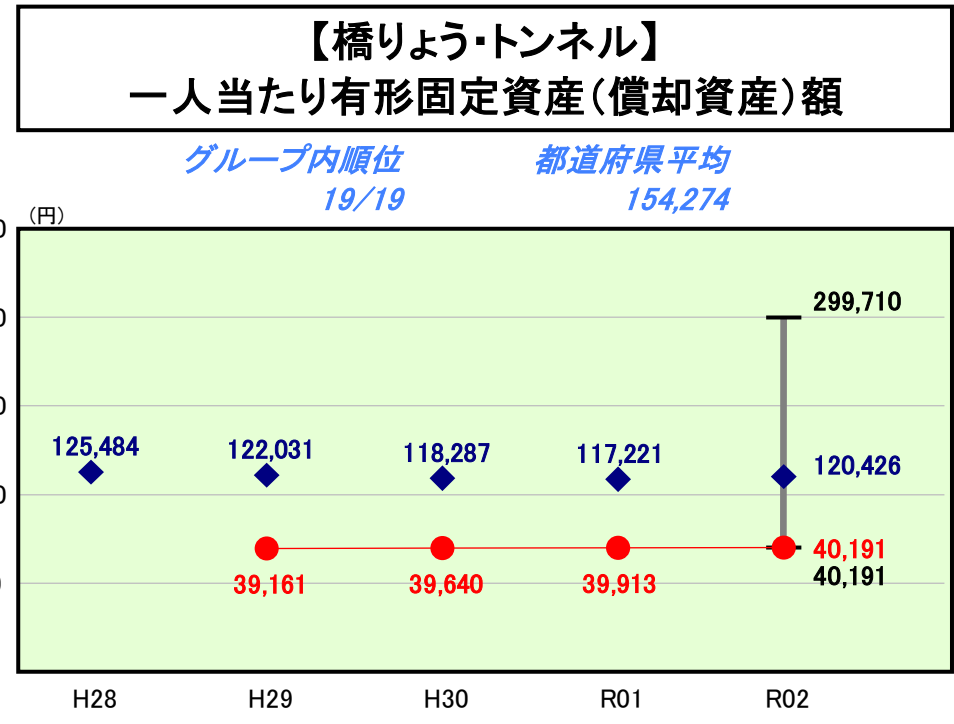
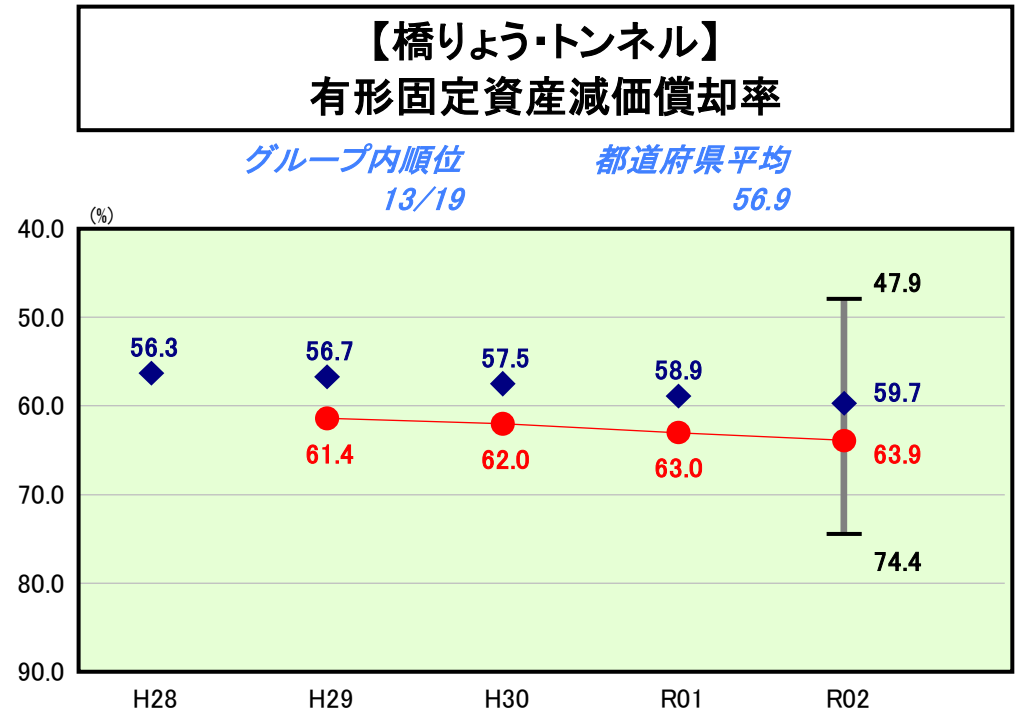
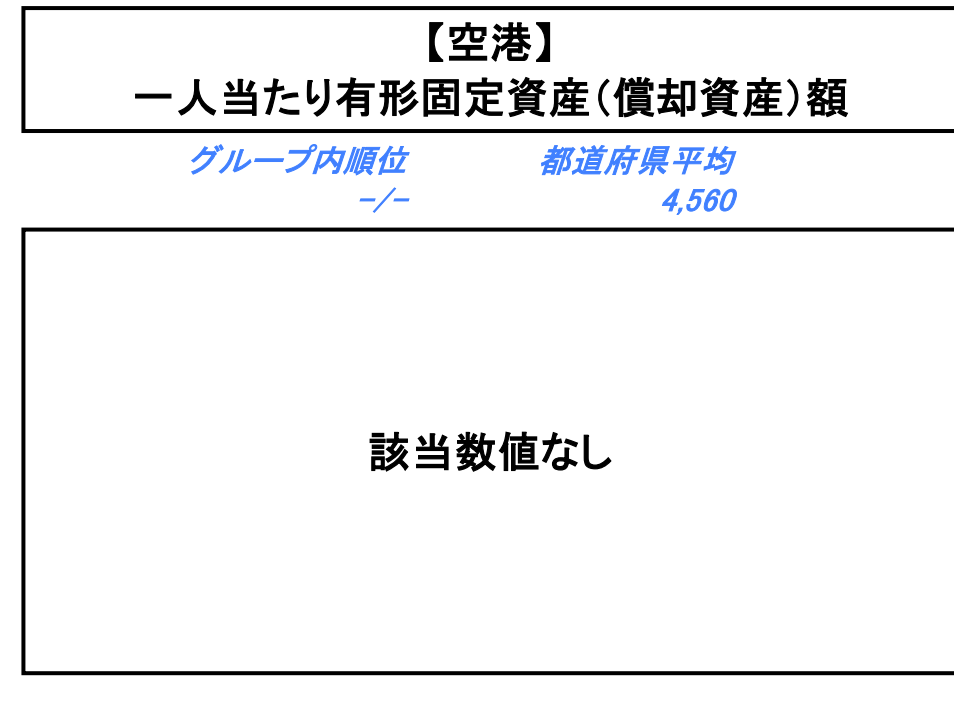
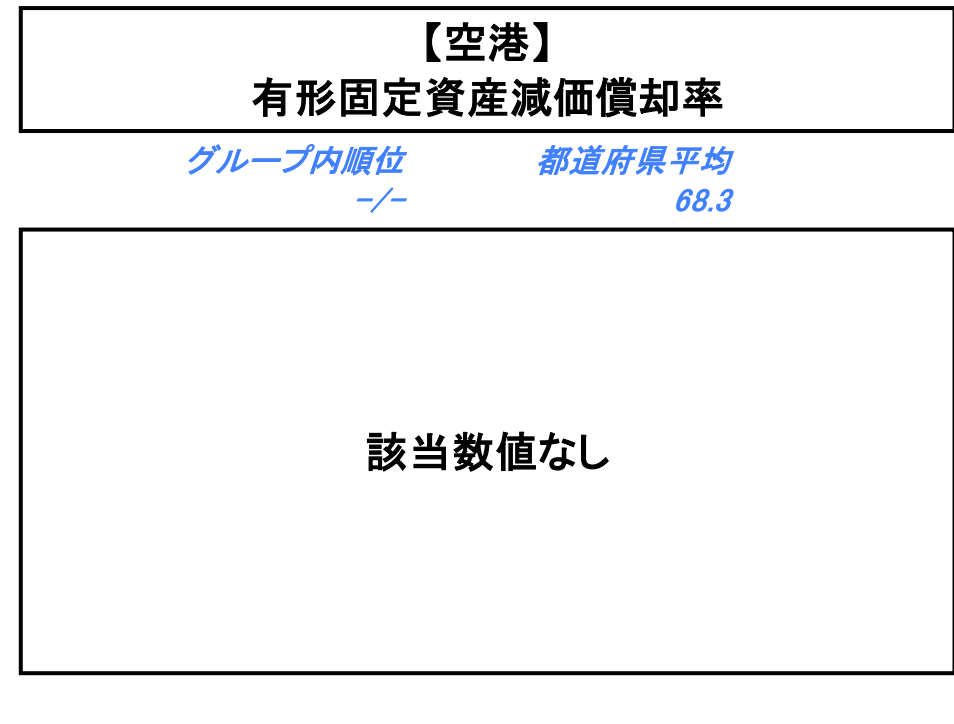
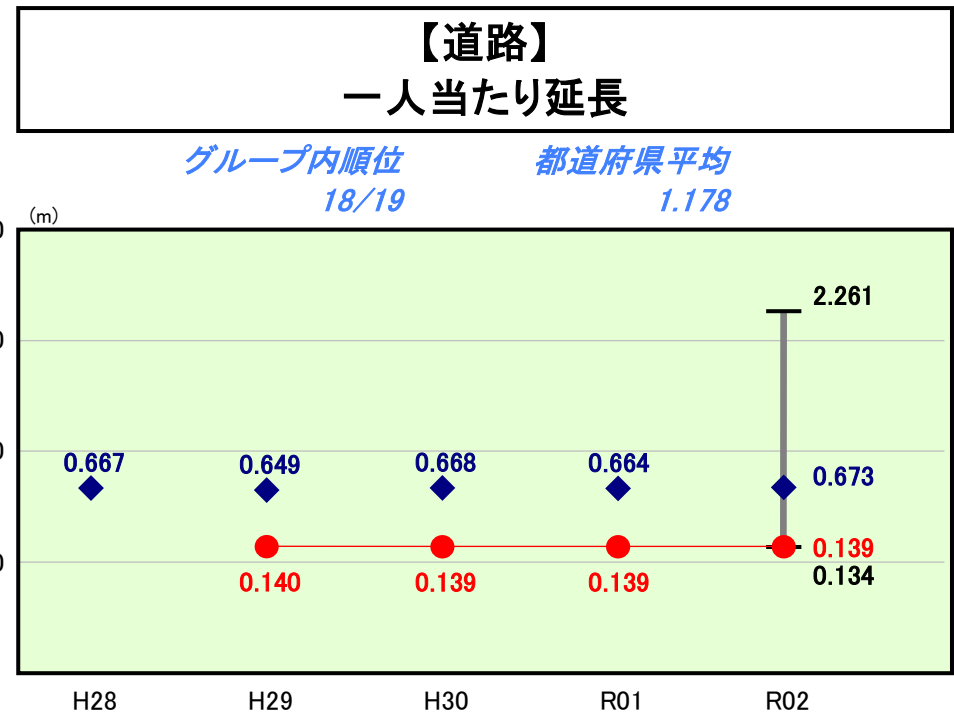
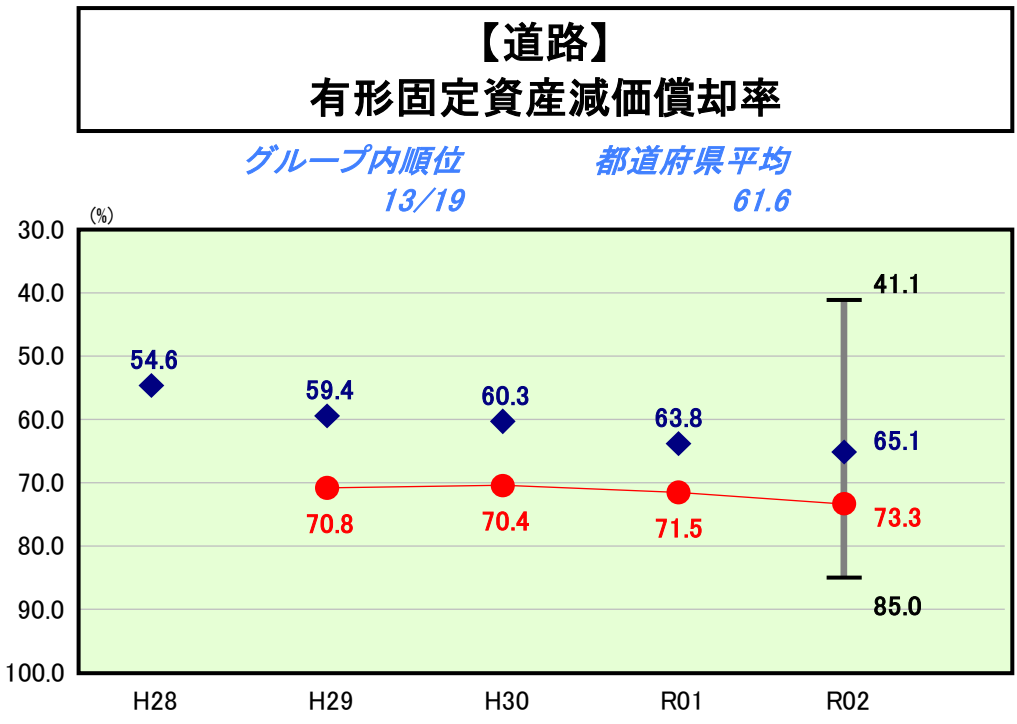
令和2年度

神奈川県

人口	9,220,245 人 (R3.1.1現在)	実質赤字比率	- %
うち日本人	8,993,479 人 (R3.1.1現在)	連結実質赤字比率	- %
面積	2,416.11 km <sup>2</sup>	実質公債費比率	9.8 %
歳入総額	2,554,233,791 千円	将来負担比率	104.8 %
歳出総額	2,340,123,593 千円	グループ	H28 B H29 B H30 B
実質収支	72,032,388 千円	(年度毎)	R01 B R02 B
標準財政規模	1,326,342,165 千円		
地方債現在高	3,413,876,569 千円		

- 当該団体値
- ◆ グループ内平均値
- ┆ グループ内の最大値及び最小値

※ グループとは、道府県を財政力指数の高低によって5つに分類したものである。  
 ( Aグループ 1.000以上、Bグループ 0.500以上1.000未満、Cグループ 0.400以上0.500未満、Dグループ 0.300以上0.400未満、Eグループ 0.300未満 )  
 ※ 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。  
 ※ グループ内順位及び都道府県平均は、令和2年度決算の状況である。また同一グループの団体が存在しない場合グループ内順位を表示しない。  
 ※ グループ関連の数値は、各年度の調査で回答のあった団体に関するもの。



**施設情報の分析欄**

当該表において、本県で特に有形固定資産減価償却率が高くなっている類型は、道路、学校施設、公営住宅、図書館である。

道路については、平成28年3月に策定した「神奈川県道路施設長寿命化計画」を令和4年3月に改定し、予防保全型の維持管理を基本としたメンテナンスサイクルによる長寿命化を図り、老朽化に起因する事故を未然に防いで利用者の安全・安心を確保するとともに、中長期的な維持管理・更新に係るトータルコストの縮減及び平準化を目指している。

学校施設については、県立高校の約40%、県立特別支援学校の約25%が建設後40年以上経過しており、施設全体の老朽化が進んでいること等を踏まえ、平成28年度～令和9年度を期間とする「県立学校施設再整備計画」を策定し、老朽化対策による快適な教育環境の整備と施設の長寿命化に取り組んでいるところである。

公営住宅については、建設後概ね50年を経過する住宅の建替えを推進してきたが、令和10年度までに、建替えが必要な住宅が約2万8千戸、全体の約62%に急増すること等を踏まえ、令和元年度～令和10年度を期間とする「神奈川県県営住宅健康団地推進計画」を策定し、法定耐用年限である建設後70年までに建て替えることとしている。

図書館については、県立図書館は昭和29年の開館後、大規模な改修を行っていなかったため、施設・設備の老朽化が進んでいたこと等を踏まえ、平成28年に「県立図書館の再整備に向けた基本的な考え方」を取りまとめ、県民サービスの低下を招かないよう、開館しながらの工事実施を基本とした再整備(整備期間7年程度を予定)を行っている。

# (13)-2都道府県施設類型別ストック情報分析表②

令和2年度

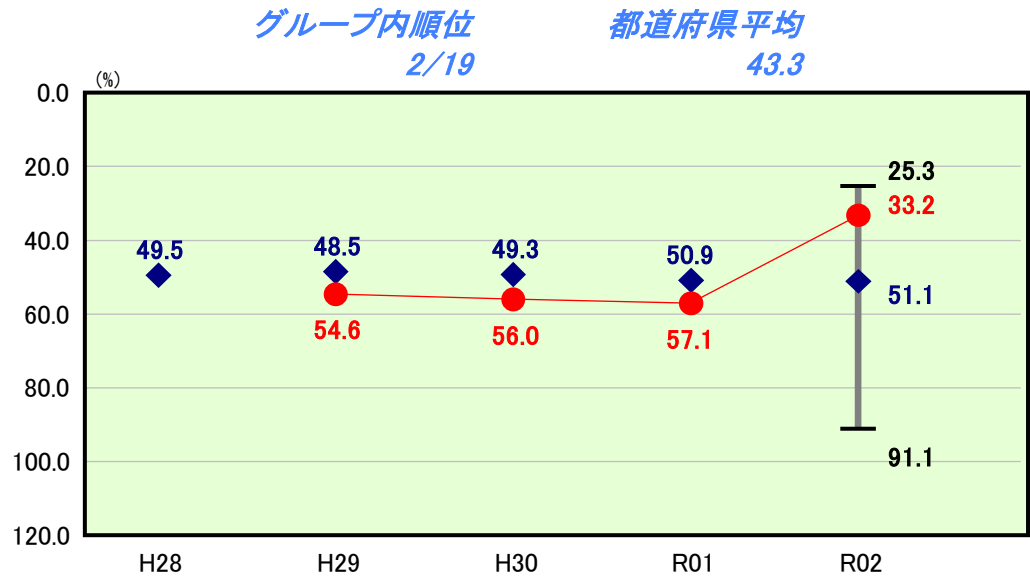
神奈川県

人口	9,220,245人	(R3.1.1現在)	実質赤字比率	-	%
うち日本人	8,993,479人	(R3.1.1現在)	連結実質赤字比率	-	%
面積	2,416.11	k㎡	実質公債費比率	9.8	%
歳入総額	2,554,233,791	千円	将来負担比率	104.8	%
歳出総額	2,340,123,593	千円	グループ	H28 B H29 B H30 B	
実質収支	72,032,388	千円	(年度毎)	R01 B R02 B	
標準財政規模	1,326,342,165	千円			
地方債現在高	3,413,876,569	千円			

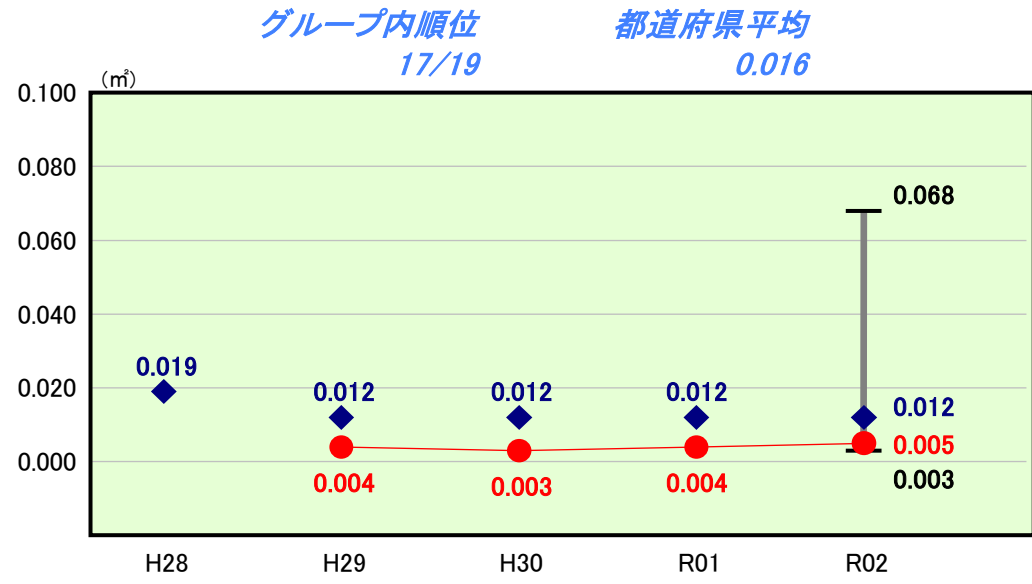
- 当該団体値
- ◆ グループ内平均値
- ┌ グループ内の最大値及び最小値

※ グループとは、道府県を財政力指数の高低によって5つに分類したものである。  
 ( Aグループ 1.000以上、Bグループ 0.500以上1.000未満、Cグループ 0.400以上0.500未満、Dグループ 0.300以上0.400未満、Eグループ 0.300未満 )  
 ※ 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に記載されている人口に基づいている。  
 ※ グループ内順位及び都道府県平均は、令和2年度決算の状況である。また同一グループの団体が存在しない場合グループ内順位を表示しない。  
 ※ グループ関連の数値は、各年度の調査で回答のあった団体に関するもの。

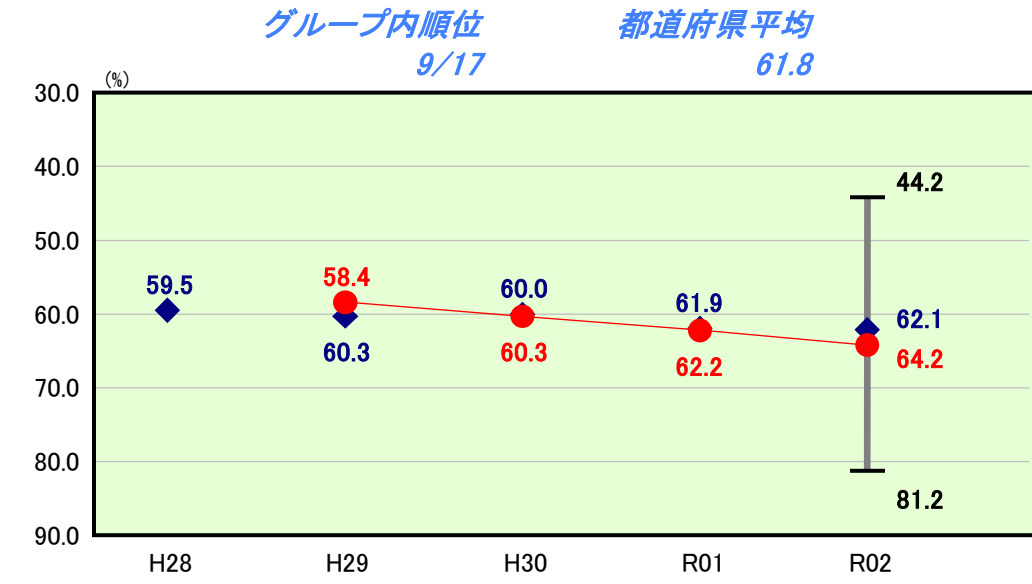
【体育館・プール】  
有形固定資産減価償却率



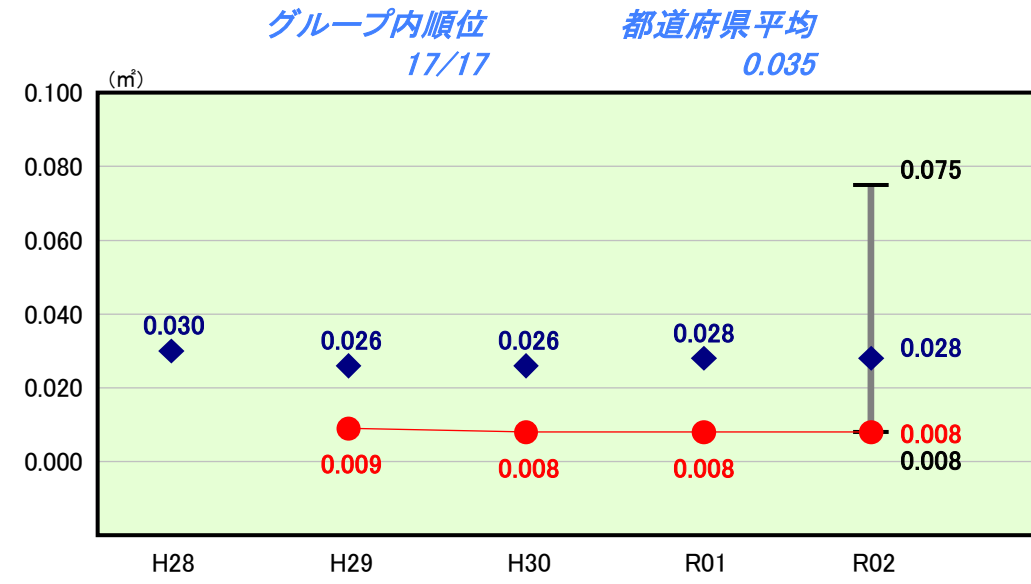
【体育館・プール】  
一人当たり面積



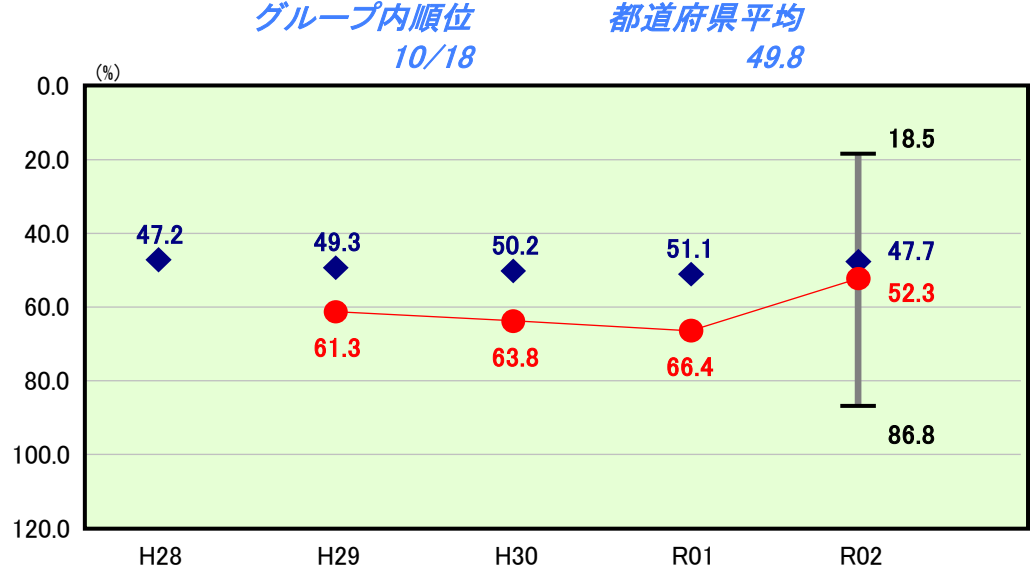
【試験研究機関】  
有形固定資産減価償却率



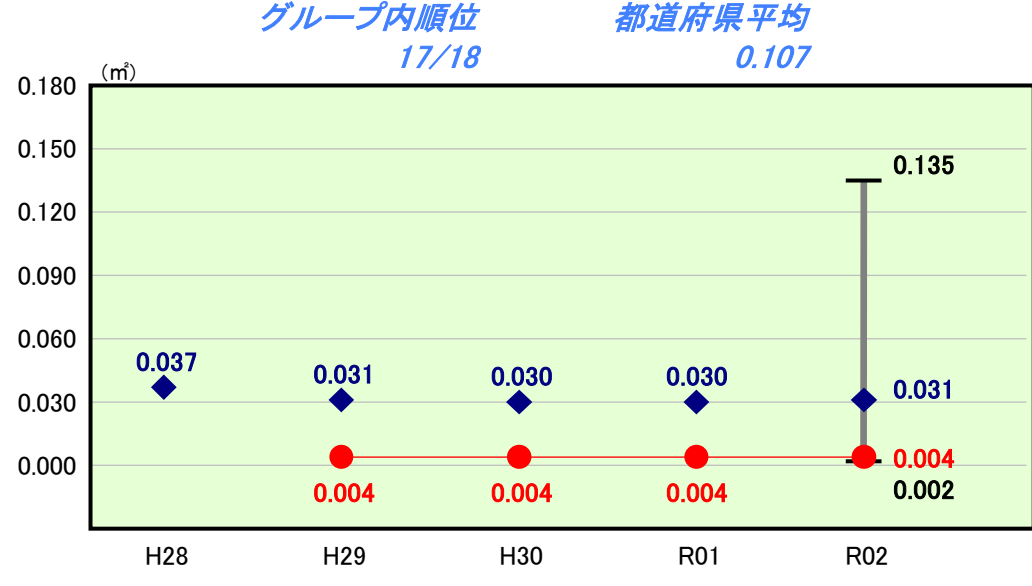
【試験研究機関】  
一人当たり面積



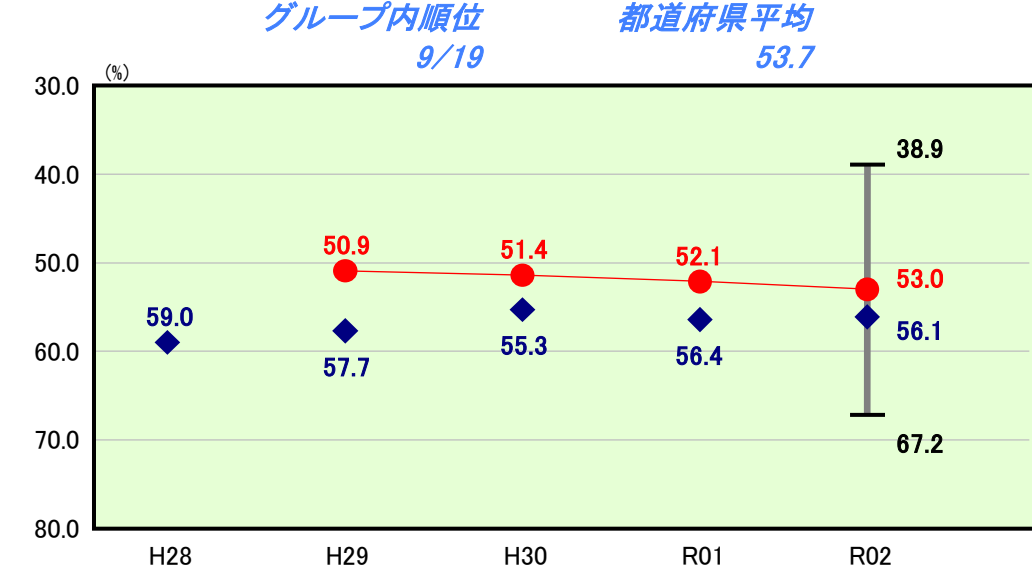
【陸上競技場・野球場・球技場】  
有形固定資産減価償却率



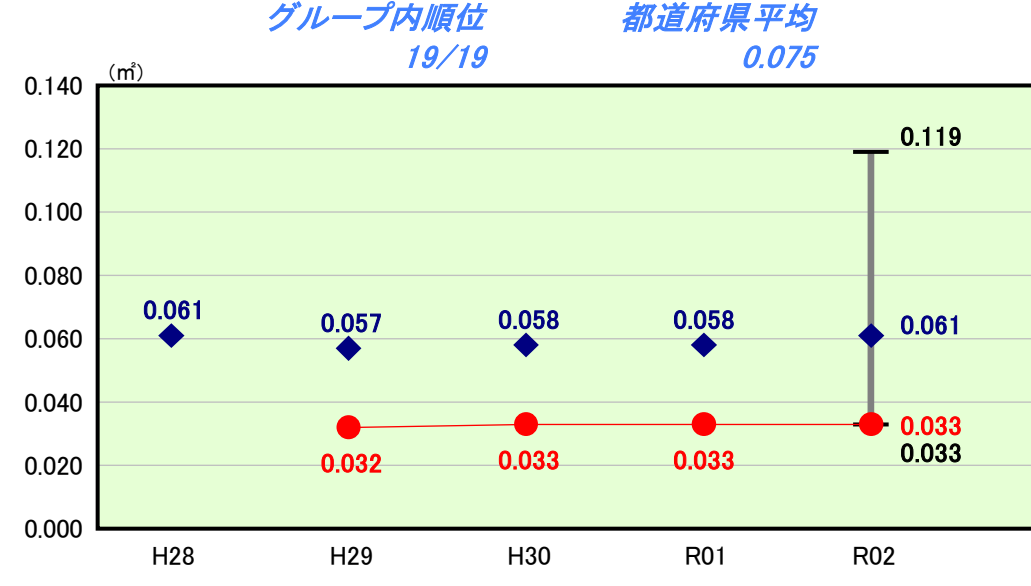
【陸上競技場・野球場・球技場】  
一人当たり面積



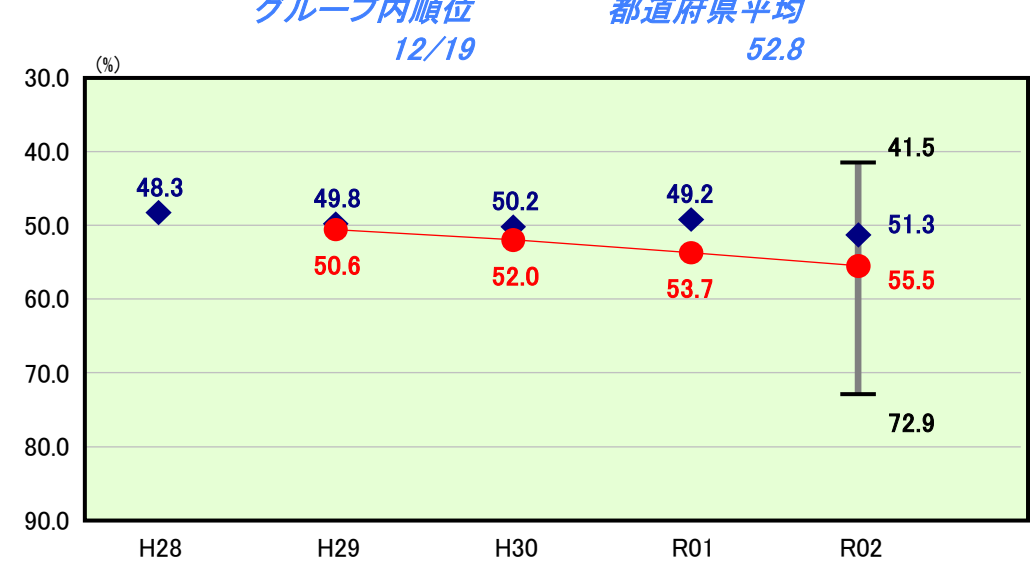
【警察施設】  
有形固定資産減価償却率



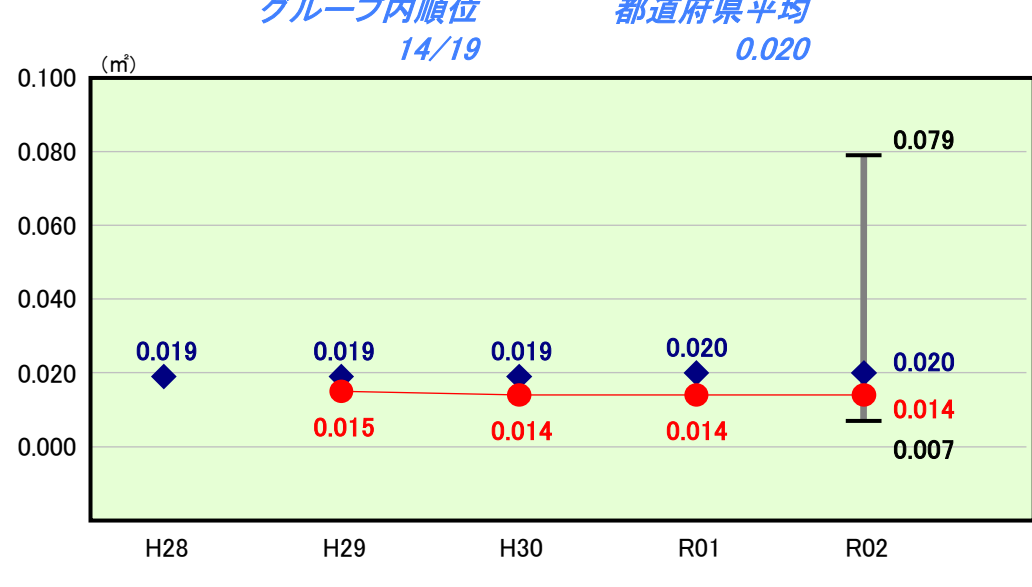
【警察施設】  
一人当たり面積



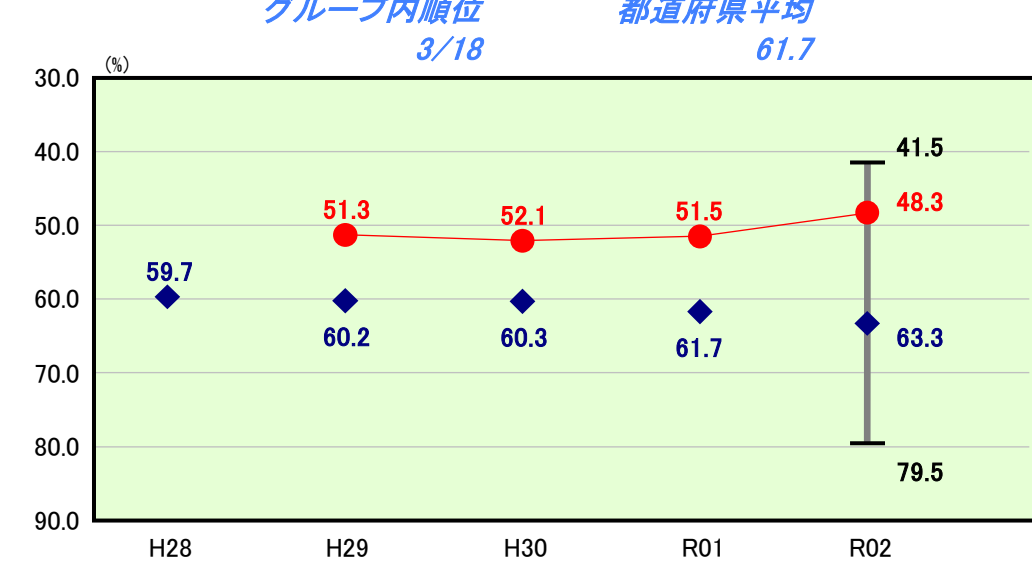
【県民会館】  
有形固定資産減価償却率



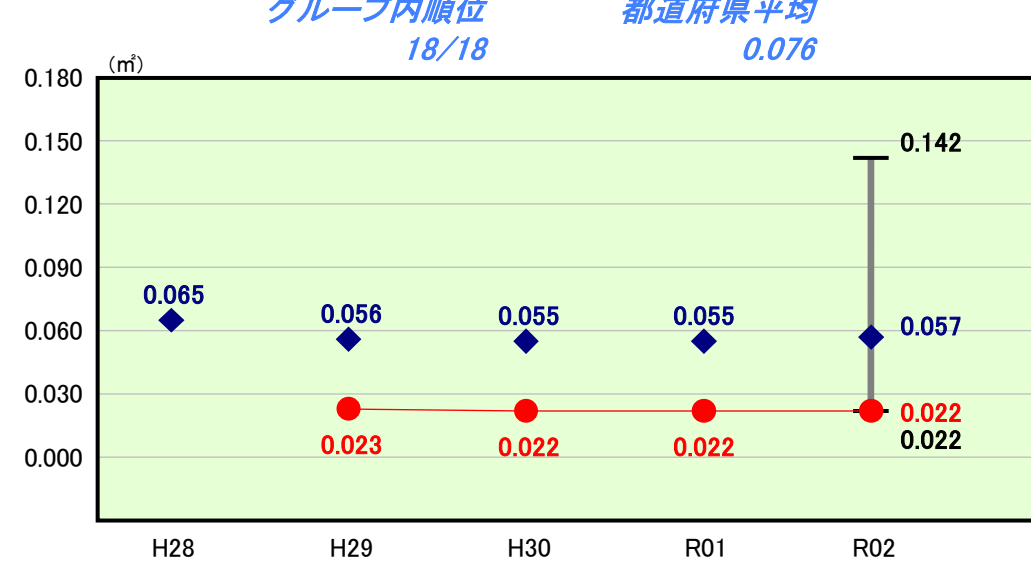
【県民会館】  
一人当たり面積



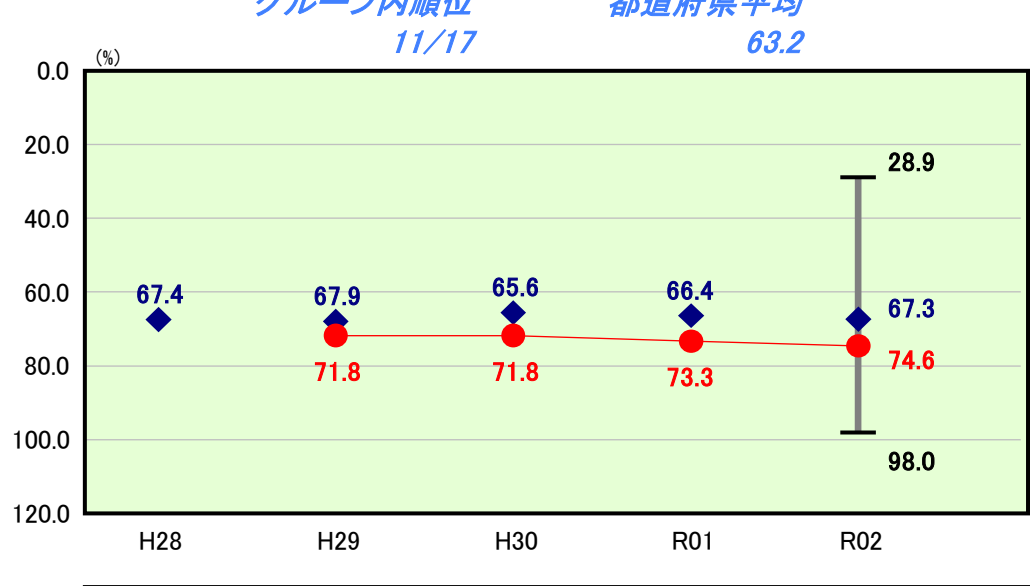
【庁舎】  
有形固定資産減価償却率



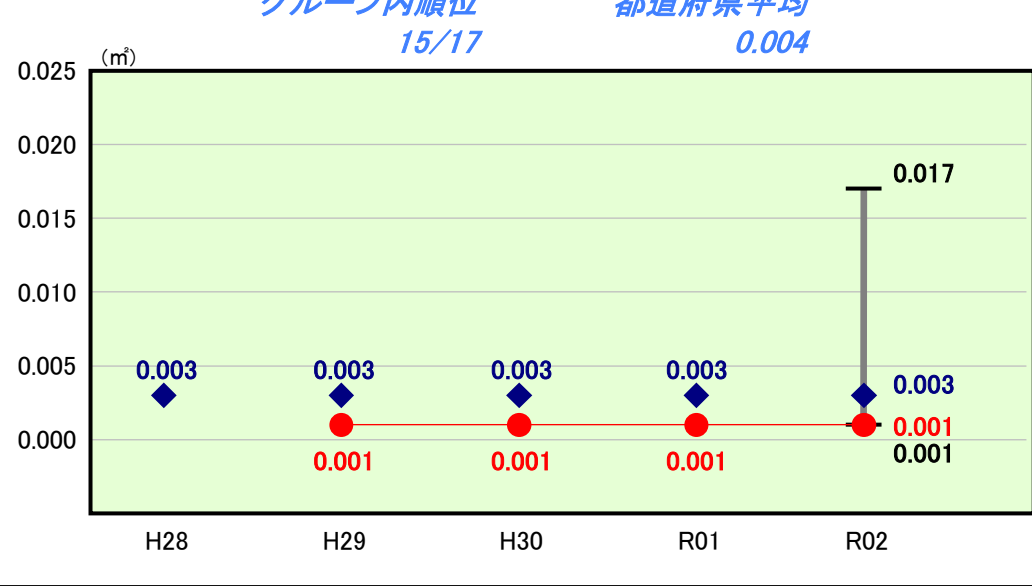
【庁舎】  
一人当たり面積



【保健所】  
有形固定資産減価償却率



【保健所】  
一人当たり面積



**施設情報の分析欄**  
 当該表において、本県の有形固定資産減価償却率が高くなっている類型は保健所である。これは既存施設の長寿命化対策を進め、有効に活用することで、財政負担を抑えているためである。  
 体育館・プール及び陸上競技場・野球場・球技場については、近年、老朽化が進んだスポーツ施設の改修工事を進めており、環境の再整備に取り組んだ結果、令和元年度と比較して有形固定資産減価償却率が大きく減少している。